

竹中コーポレートレポート2022

Corporate Report 2022



想いをかたちに 未来へつなぐ



サステナブル社会の実現を目指して
当社グループが推し進める事業と取り組みを、
コーポレートレポートやWEBで
ステークホルダーの皆様にお伝えします。

編集方針

「竹中コーポレートレポート2022」は、竹中グループのグループCSRビジョンを示すとともに、グループ事業全体の取り組みをわかりやすくお伝えするものです。竹中工務店の活動内容を中心に構成し、誌面の都合で掲載できないコンテンツや事例、データについては竹中工務店WEBサイトに掲載しています。

2014年より会社案内(事業概要紹介)とサステナビリティレポート(CSR活動報告)を統合し、中期経営計画や財務・非財務の主要データを盛り込み、グループ・グローバルな展開を行う当社の事業活動全体をステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的に発行しています。

誌面に掲載された二次元コードを読み込むと、WEBサイトの関連情報をご覧いただけます。

報告対象

■ 報告対象期間

2021年1月～2021年12月
当該年以外の活動も一部掲載しています。

■ 報告対象範囲

竹中工務店の活動を中心にグループ会社の活動を含んだ内容としています。

■ 参考ガイドライン

GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード、環境省の「環境報告ガイドライン2018年版」及び日本規格協会発行の「日本語訳ISO26000社会的責任に関する手引」(第一版2010年11月1日)を参考にしました。

■ 発行

日本語2022年3月(次回発行予定2023年3月)
英語2022年5月(次回発行予定2023年5月)
なお、より多くの皆様にお読みいただけるよう、WEBサイトでも公開しています。

■ お問い合わせ先

広報部 03-6810-5140

企業WEBサイト
(日本語版/英語版)



<https://www.takenaka.co.jp>



• 建築作品 • ソリューション
• 会社情報 • CSR情報 など

企業パンフレット(日本語版/英語版)



コーポレートレポート
(日本語版/英語版)



建築作品集
(和・英併記)



Financial Report
(英語版)

当社の財務情報、非財務情報を統合しコンパクトにまとめました。
事業活動や成果(作品)などもより詳しく紹介しています。

※技術・ソリューションの個別パンフレットもあります。

財務・非財務の広範囲にわたる詳しい情報をタイムリーにカバーしています。

CONTENTS

4 竹中工務店について

- 4 グループ概要
- 5 竹中の歩み
- 7 グループCSRビジョン
- 8 名誉会長・会長メッセージ
- 9 社長メッセージ

13 重要課題(マテリアリティ)

- 13 竹中工務店の重要課題(マテリアリティ)
- 14 サステナブル社会に向けた取り組み
 - 環境との調和
 - 働き方・生産性改革
 - 持続可能な建築・まちづくり

21 事業活動

- 21 建築 — お客様の想いをかたちに
- 25 海外 — お客様のグローバルな事業活動をサポート
- 27 開発 — まちづくりで新たな価値を創造する
- 29 エンジニアリング — お客様の課題に最適なソリューションを
- 33 技術開発 — オープンイノベーションで技術開発を加速
- 35 グループ会社 — 国内主要グループ会社の事業活動

37 重要課題(マテリアリティ)解決への取り組み

- 37 サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画
- 39 持続可能な建築・まちづくり
- 41 環境との調和
- 42 働き方・生産性改革
- 43 着実な生産プロセス
- 44 健全な組織基盤

45 社会貢献/コーポレート・ガバナンス

- 45 社会貢献活動の推進
- 47 コーポレート・ガバナンス

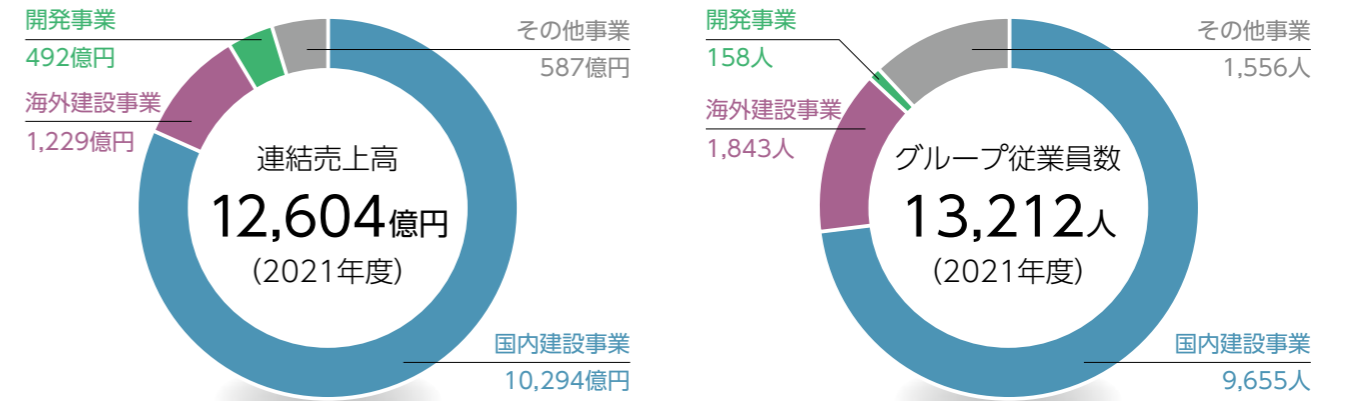
49 財務・非財務ハイライト



グループ概要

グループ全体で「まちづくりの全てのステージ」でお客様の期待に応えます。

竹中グループの事業規模



竹中グループ主要各社の主な事業領域



※間接保有を除く主要な連結対象会社を記載しています。

竹中のこれまでとこれから

竹中工務店は1610年(慶長15年)の創業以来、建築を専業とし、ランドマークとなる数多くの建築物を手掛け、社会発展の一翼を担ってきました。宮大工の棟梁であった初代 竹中藤兵衛正高から受け継がれた精神は、様々な「作品」となって国内外へ、また建築の枠を超えて、豊かで安心な「まちづくり」に広がっています。

1610



1610
初代 竹中藤兵衛正高 名古屋で創業。
神社仏閣の造営を業とする。

1874
維新後、次第に洋風建築を手掛け、
名古屋鎮台兵舎竣工。

1884
三井銀行名古屋出張店竣工。

1897
三井名古屋製糸所竣工。

1899
14代 竹中藤右衛門が神戸に進出、
創立第1年とする。

1900
三井銀行神戸小野浜倉庫竣工。



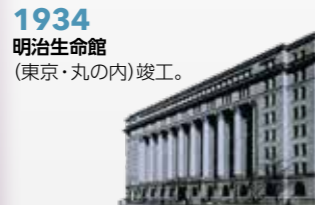
1909
合名会社 竹中工務店設立。
神戸を本店に名古屋を支店とする。

1912
商店建築では日本初の
鉄筋コンクリート造の
高島屋京都店竣工。



1916
鉄骨鉄筋コンクリート造の
大阪朝日新聞本社竣工。

1920



1934
明治生命館
(東京・丸の内)竣工。

1937
株式会社 竹中工務店設立。
資本金150万円。

1941
株式会社 竹中土木設立。

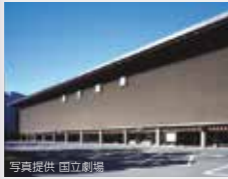
1957
南極観測用施設製作。
竹中式潜函工法特許を取得。

1958
高さ333mの東京タワー竣工。



1960
TAKENAKA & ASSOCIATES INC.
をサンフランシスコに設立、
海外事業を本格化。

1963
国立劇場の設計競技において
1等に入選。



1969
株式会社 アサヒファシリティズ設立、
ビル管理事業、保険事業に進出。

1973
ヨーロッパ竹中設立、欧州へ進出。

1974
タイ竹中、インドネシア竹中、
シンガポール事務所設立、
東南アジアへ進出。

1975



1978 **西ドイツ**
日独センター竣工。

1979
デミング賞実施賞受賞。

竹中工務店を含むASTMグループが
提案した芦屋浜シーサイドタウン竣工。



1981 **シンガポール**
チャンギ国際空港ターミナル竣工。

1983 **東京**
大手センタービル竣工、開業。

1986
第二国立劇場の国際設計競技に
おいて最優秀作品に入選。

1987
有楽町マリオン竣工。



1987 **サンフランシスコ**
ホテル日航サンフランシスコ
竣工、開業。

1988
竹中錬一会長がデミング賞本賞を受賞。

日本初の空気膜構造による
多目的スタジアム・東京ドーム竣工。



1990

1990 **大阪**
クリスタルタワー竣工、開業。

1990
マレーシア竹中設立。

1991 **ハワイ**
グランドハイアットカウアイ
リゾート&スパ竣工、開業。



1992
日本品質管理賞受賞。

1993
日本初の屋根開閉式多目的スタジアム・
福岡PayPayドーム竣工。



1993
竹中土木インドネシア設立。

1995
環境建築のパイオニア
アクロス福岡竣工。



1996 **タイ**
アユタヤ銀行
本社竣工。

1997
5大ドームの一角ナゴヤドーム竣工。
(現バンテリンドーム ナゴヤ)



2000

2001
アメリカ竹中設立。

2001
大分スポーツ公園 昭和電工ドーム大分、
札幌ドーム「Hiroba」竣工。

2003
中国竹中設立。

ドイツ
現代自動車欧州本社竣工。



2006
超高層免震マンション
シティタワー西梅田竣工。

2007
中部地方一の高さを誇る
ミッドランドスクエア竣工。

東京都心の大型複合施設
東京ミッドタウン、
新丸の内ビルディング竣工。



2008
世界初の3棟連結超高層集合住宅
アイランドタワースカイクラブ竣工。

2009
三菱一号館の復元及び
丸の内パークビルディング竣工。



2010

2010
インド竹中設立。

2013
燃エントッド®を採用した
大阪木材仲買会館竣工。



2014
日本一の高さを誇る
あべのハルカス竣工。

日本建築学会賞(作品)を
明治安田生命新東陽町ビルで受賞。



2017
ベトナム竹中設立。

シンガポール
東南アジアのハブ空港として、
人と経済の流れを支えるチャンギ
国際空港第4ターミナルビル竣工。



インドネシア
LEEDプラチナ認証取得の優れた
環境性能をもつパシフィック
センチュリー プレイス ジャカルタ竣工。



2018

2018
開かれた知と地の拠点
常葉大学草薙キャンパス竣工。



レガシー活用事業第一弾
旧山口萬吉邸 kudan house完成。



2019 **京都**
京都東山計画(山荘 京大和・
パーク ハイアット 京都)開業。



2019
スポーツイベント会場となる
有明アリーナ竣工。



まちとともに文化を育む
渋谷 パルコ・ヒューリックビル竣工。

先進医療の拠点となる
国立循環器病研究センター竣工。



2020

2020 **東京**
森林グランドサイクル®を加速する
FLATS WOODS 木場竣工。



2020
市民に開かれた
横浜市役所竣工。

パシフィック横浜ノース竣工。
PFI事業でヨコハマの景観に寄与する。



立体ポロノイによる空間構成の
三栄建設 鉄構事業本部新事務棟竣工。



環境の変化を内包するオフィス
リバーホールディングス両国竣工。



立体都市公園制度を活用した
MIYASHITA PARK竣工。



想いをかたちに 未来へつなぐ

当社は「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」ことを使命としてきました。そのために、社是を基本姿勢とし、手掛ける建築物の一つひとつを丹精込めてつくってきました。そして、お客様満足や社会の信用を得て企業の社会的価値を高める「品質経営」を継続しています。

さらに、私たちを取り巻くステークホルダーが多様化する中で、建築に求められる機能や価値も変化してきており、これまで以上に社会と価値観を共有する企業活動が求められています。また、社会全体を見ても、「地球温暖化・気候変動」「安全・安心の確保」「社会インフラの老朽化」「少子高齢化」など多くの課題を抱えています。これらの問題は未来の社会に大きな

影響を及ぼす可能性があり、企業が果たす社会的責任は一層重要性を増しています。

こうした中で、当社はグループの力を結集し、社会そしてステークホルダーとの対話を深め、社会の課題を解決してサステナブル社会を実現することを示した「竹中グループCSRビジョン」と、当ビジョンを含む企業理念、品質経営基本方針の考え方を表現した「竹中グループメッセージ」を定めています。当社の原点である企業理念を一人ひとりが胸に刻み「品質経営」を推進するとともに、CSRの行動指針である企業行動規範を実践することで、このビジョンを実現していきます。

企業理念	経営理念	最良の作品を世に遺し、社会に貢献する		
	社是	正道を履み、信義を重んじ堅実なるべし 勤勉業に従い職責を全うすべし 研鑽進歩を計り斯道に貢献すべし 上下和親し共存共栄を期すべし		
品質経営	品質経営基本方針	品質重視の経営に徹し 新しい環境創造への挑戦により お客様満足と社会の信用を得る		
ビジョン	竹中グループCSRビジョン	私たち竹中グループは、ステークホルダーとの対話を深め、その想いを「まちづくり」を通してかたちにし、未来のサステナブル社会へつないでいきます。		
方針	安全衛生方針	品質方針	環境方針	
	人権方針	調達方針	税務方針	内部統制基本方針
行動指針	企業行動規範	1. お客様満足とまちづくりを通じた持続可能な社会の実現 2. 法令及び社会規範の遵守 3. 情報の開示及び保護 4. 人権の尊重 5. 働きやすい職場環境の実現 6. 地球環境への貢献 7. 社会への貢献 8. 危機管理の徹底 9. 国際規範の尊重と各国・地域への貢献 10. 実施体制の整備と違反への対応		
メッセージ	竹中グループメッセージ	想いをかたちに 未来へつなぐ		

竹中グループCSRビジョン、竹中グループメッセージに込めた想い

私たちは、サステナブルな社会の実現に向け、「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員」「協力的会社」などのステークホルダーの期待に応えるとともに、その人々が集い、作用し合う「まち」が、今も未来も豊かで、安全で、優しいものでなければならないと考えています。そのために、ステーク

ホルダーとの対話をより一層深めていきます。そして、その「想い」を建築、土木、不動産・開発、ファシリティマネジメント、リニューアルといった当社グループの事業力を組み合わせた新たな価値をもつ「まちづくり」を通してかたちにし、未来のサステナブル社会を実現していきます。



1899年の創立以来、棟梁精神と品質経営を貫き続けた結果、広くお客様からの信頼をいただいております。感謝申し上げます。これまでの123年にわたる営みの中では幾多の環境変化が訪れ、その影響の範囲やスピードは加速度を増していますが、「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念、「正道を履み信義を重んじ堅実なるべし」を第一とする社是こそが当社の原点であり、これからも守っていくべき創始者の想いです。サステナブル社会の実現に向けて、社会とお客様の期待に変わらずお応えできるよう、弛まず歩み続けてまいります。

2022年3月
取締役名誉会長
竹中統一

絶え間ない環境変化と価値観の多様化が進む中で、企業として果たすべき責務はより広く、かつ重くなっています。

当社のお客様をはじめとしたステークホルダーとの対話をもとに、まちづくりを通じて社会に貢献することをグループのビジョンとして掲げていますが、そのためには求められる役割や信用に応えられているのかを常に見つめ直し、真摯に課題に取り組むことが必要だと考えています。「自らの持ち場を深く掘り進め、与えられた責任を全うすることで、全てに通じる真理にも達することができる」強い信念をもって臨んでいきます。

2022年3月
取締役会長
橋谷宗虎



サステナブル社会の実現に向けて



2020年からの新型コロナウイルス感染症拡大による影響が、社会経済や人々の暮らしに至るまで及んでおり、大きな変化をもたらしました。
 当社は、従来から様々な社会課題への取り組みを通じてサステナブル社会の実現を目指しており、この度のコロナ禍についても対処すべき課題の一つとして対応を進めてまいりました。当社グループの総合的なエンジニアリング力によって、社会課題の解決と「まち」の高度化・多様化を進め、豊かで安心なまちづくりを実現していきます。

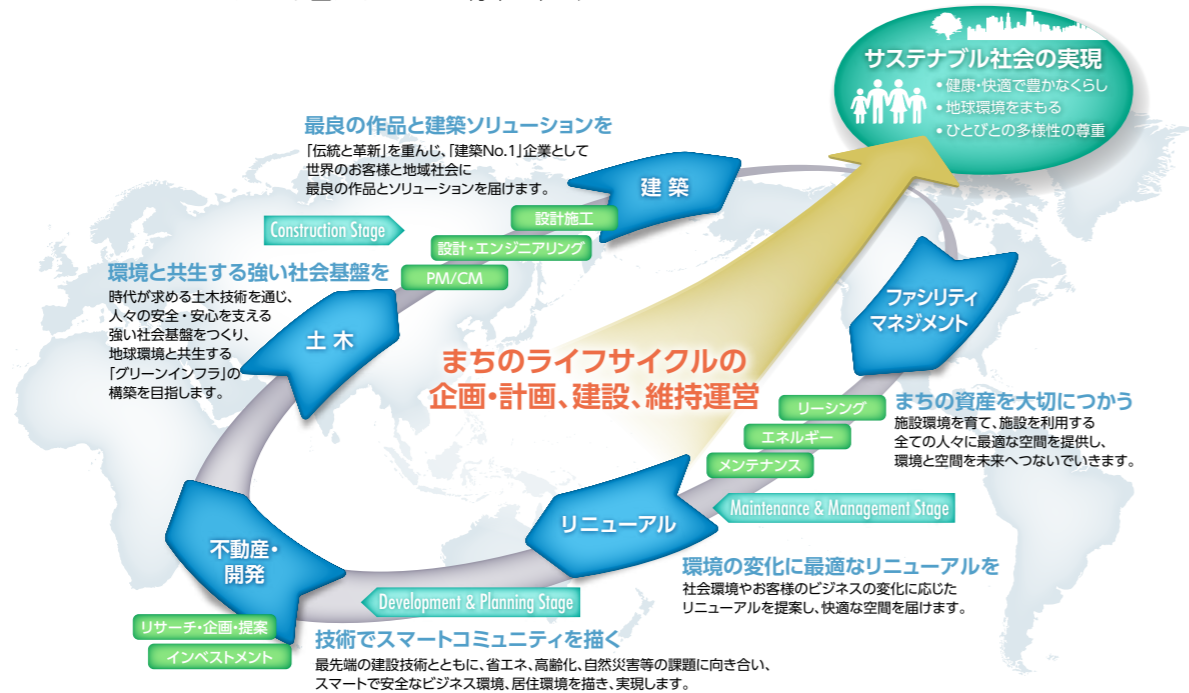
2022年3月
取締役社長

佐々木 正人

環境変化と当社の役割

近年の環境変化では、気候変動の影響による自然災害の激甚化やエネルギー問題が世界共通の差し迫った課題となっており、脱炭素に向けた取り組みが強く求められています。自然災害への備えやインフラの整備などにおいて建設業の果たすべき役割は大きいものがありますが、ハード面だけでなく将来の社会

のありたい姿を描いて、「まち」としての機能を高めていくことこそが、当社が目指す「まちづくり総合エンジニアリング企業」の姿です。今後もグループ全体の事業領域を「まち」として捉え、まちのライフサイクル全体に関わる価値を提供していきます。



重点的に進める取り組み

● 環境との調和
 当社は、サステナブル社会の実現のために1992年に地球環境憲章を制定して以来、環境コンセプトに基づいた環境建築の取り組みを中心とした活動を進めてまいりました。
 2021年にはTCFDの提言に賛同し、気候変動が当社事業に及ぼすリスクや機会を分析・把握するとともに、それらの対応について、情報開示に努めていきます。これからも健康・快適で豊かに暮らせる社会、脱炭素社会、資源循環社会、自然共生社会を目指して、ステークホルダーとの対話を通じてまちの課題を共有・解決していきます。

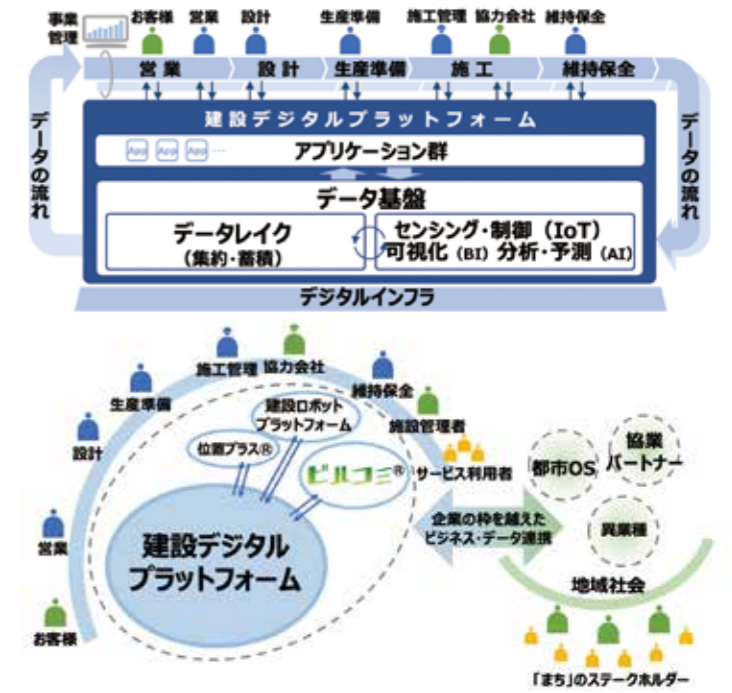
● 働き方・生産性改革
 建設業界の喫緊の課題である働き方改革や技能者の不足、改正労働基準法等への対応に向けて、デジタル技術を活用することで、「ものづくり」の大幅な生産性向上や事業運営の大幅な効率化による生産性改革を進めています。中でも、生産活動全般にわたる業務改革である「竹中新生産システム」やBIMの展開などにより、徹底した業務のデジタル化を進めます。同時に、事業に関わる全てのデータを2021年に運用を開始した「建設デジタルプラットフォーム」へ一元的に蓄積し、AI等を用いたデータ利活用の高度化を図ることで、事業の効率化とともに、社会とお客様への新たな価値創造を進めていきます。

今後スマートビル実現や建設ロボット管理のプラットフォーム等との連携を深め、建設事業から施設運営に至るトータルな展開を進めるとともに、将来的には地域社会における様々なデータプラットフォームとの連携を図り、新しい建築・まちづくりサービスの提供を目指します。

● 持続可能な建築・まちづくり
 当社が目指す「まちづくり総合エンジニアリング企業」の中核的な役割を担う組織として、2017年10月に「まちづくり戦略室」を設置し、「MACHInnovation® (マチノベーション)」と名付けた活動を進めてきました。多様なステークホルダーとの協業や「まち」の課題への取り組みが形になってきており、こうした取り組みを通じて持続性のある社会への変革に貢献していきます。



森林グランドサイクル®の概念
森林資源と地域経済の持続可能な好循環



新しい建築・まちづくりサービスの提供



ありたい姿の概念

当社では、グループの力でまちのライフサイクルに沿った総合エンジニアリング力を発揮していくために、建設技術とサービスが融合したソリューションを生み出していくことを目指しています。時代とともに様々に変化していく社会課題に対して、求められる

価値は一樣ではありません。グループ全体で、多岐にわたる専門性と技術力、マネジメント力を発揮できるよう、経営資源の強化・拡充と人材・技術・ICTなどへの投資を進め、社会とお客様にとって最良のパートナーを目指します。



品質経営と新たな事業への取り組み

品質経営の基本姿勢

持続的かつ健全な企業活動を目指すうえで、当社では「品質経営」を基本的な姿勢としています。これは、創業以来、建築専門と設計施工一貫を事業の柱としてきた源流が、宮大工の「棟梁精神」にあるということが背景になっています。建物を施工する技術・知識だけでなく、「請け負った仕事には最後まで責任を持つ」という棟梁の強い信念を「品質経営」の根幹としており、品質重視の経営に徹し、新しい環境創造への挑戦によってお客様満足と社会の信用を得ることを基本姿勢としています。

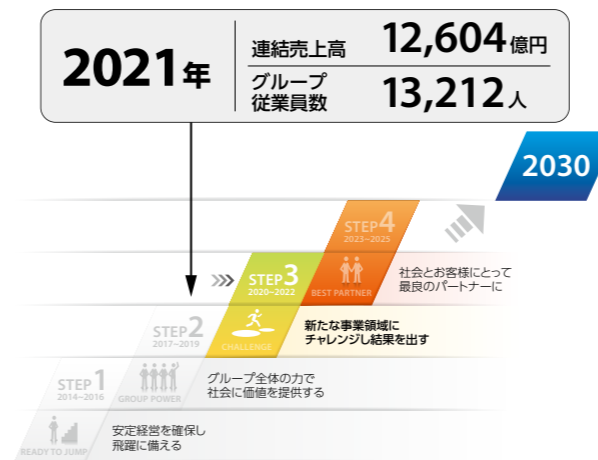
品質経営基本方針 品質重視の経営に徹し、新しい環境創造への挑戦により、お客様満足と社会の信用を得る



山口県防府天満宮所蔵[松崎天神縁起絵巻]

成長へのステップと2030年のマイルストーン

ありたい姿に向けた成長戦略を策定し、各ステップごとの事業3か年計画へと展開するとともに、SDGsのゴールであり、当社の成長戦略STEP3開始から10年という節目となる2030年のマイルストーンを設定しています。グループのコア事業である建設事業を中心に持続的な安定経営を目指し、海外建設事業、開発事業に加え新規・サービス事業の拡大を図っていきます。



3か年計画の経過と最終年に向けて

2022年は、現3か年計画の最終年であり、「新たな事業領域にチャレンジし結果を出す」ための活動を総括していくこととなります。2020年までに、歴史的価値の高い建物の状態保存を伴ったレガシー活用事業や、地熱発電事業を開始しており、2019年に開催した「アクセラレータプログラム」によるスタートアップ企業との協業も継続しています。引き続き、当社の専門領域やエンジニアリング力を活かした事業への取り組みを進めていく予定です。一方、コロナ禍による経営環境への影響は大きく、3か年計画はスタート時点からの修正を余儀なくされる場面も生じることとなりました。そうした中においても、感染拡大防止と関係者の安全確保に最大限の努力を行いながら事業

一方、事業目標とあわせて人権尊重とコンプライアンスの遵守に基づいた具体的な目標を定め、健全な企業活動のために、今後も従業員が心身ともに健康で活躍できる環境を整え、従業員満足度調査をはじめ、平均労働時間、ガバナンスの強化、作業所閉所などのKPIを可視化し、達成していきます。

マイルストーン	連結売上高	グループ従業員数
2030年	16,200億円	14,000人
国内建設:	12,400億円 建築11,400(RN3,000)/土木1,000	従業員満足度調査: 4.0以上 5段階評価
海外建設:	2,300億円 建築2,200/土木100	平均総労働時間: 1,900時間
開発事業:	700億円	ガバナンスの強化: 法令違反 0件
新規・サービス事業:	820億円	作業所閉所: 4週8閉所 100%

を継続し、お客様の期待にお応えすることを目指してまいりました。これからも、激しい環境変化に対して柔軟に対応しながら、揺るぎない経営理念のもとにサステナブル社会の実現に向けて確かな歩みを続けていきます。



竹中工務店の重要課題(マテリアリティ)

竹中工務店は、「まちづくり総合エンジニアリング企業」として、社会課題を解決しサステナブル社会を実現するための重要課題(マテリアリティ)を特定しています。成長戦略に重要課題を組み込み、その実現に向けた具体的な活動計画と目標を定め事業活動を展開していきます。(「サステナブル社会に向けた2020-2022活動計画」はP37-38参照)

重要課題(マテリアリティ)グループ分けとSDGs

重要課題グループ	重要課題	SDGsとの関わり
持続可能な建築・まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 環境(ゼロエネ・脱炭素)・社会に配慮した建築とサービスの展開 サステナブルなまちに向けた社会システムの創出 建築とまちのレジリエンスの向上 建築の長寿命化とストックの維持・活用推進 伝統文化の継承と価値再創出 	
環境との調和	<ul style="list-style-type: none"> 事業活動におけるCO₂削減 今後の気候変動への対応 生物多様性への配慮 資源循環と廃棄物削減 	
技術革新と共創	<ul style="list-style-type: none"> 先端技術開発とイノベーションの推進 共創活動の推進 	
働き方・生産性改革	<ul style="list-style-type: none"> 労働時間等の適正な労働条件の担保 持続可能で生産性の高い建設プロセスの追求 多様な人々の健やかで働きがいのある環境の実現 差別とハラスメントの撲滅 人材の確保と育成(従業員・協力会社) 	
着実な生産プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 高品質で安全な建築とサービスの提供 公衆災害や労働災害のない作業所の実現 持続可能なサプライチェーンの実現 	
健全な組織基盤	<ul style="list-style-type: none"> 信頼あるガバナンスの構築 コンプライアンスの徹底 情報開示や対話推進による組織の透明性の向上 リスクマネジメントの確立 情報セキュリティの確保 人権の尊重 	

■: 社会関連 ●: 環境関連 □: 社会・環境関連 ◆: まちづくりイノベーション関連 ★: 組織基盤関連

SDGsや事業活動との関係性の整理

特定された重要課題を事業活動との関係性を踏まえて6つのカテゴリーに分けています。また、社会課題の抽出・評価と並行して、各課題とSDGsの紐づけを行い、上表のようにまとめました。さらに、課題解決に向けて実行していく方策と、その進捗や達成度合いを測るKPI・目標値を定め、活動計画として実践しています。そして、「私たちの活動をどのように進めていけば、サステナブル社会の実現とSDGsの達成に貢献することができるか」を構造化したのが右図です。「健全な組織基盤」のもと、「技術革新と共創」「働き方・生産性改革」「着実な生産プロセス」を、「地球環境との調和」を図りながら進めることで、「持続可能な建築・まちづくり」を目指していきます。



竹中工務店の目指すサステナブル社会

サステナブル社会に向けた取り組み

「まちづくり総合エンジニアリング企業」として、様々な社会課題の解決への取り組みを通じて「まち」の高度化・多様化を進め、サステナブル社会の実現を目指していきます。



環境との調和

—自然共生社会・脱炭素社会の実現に向けた取り組み—

環境方針
環境と調和する空間創造に努め
社会の持続的発展に貢献する

当社は、脱炭素・資源循環・自然共生を実現したサステナブルな2050年の社会を目指して、環境に配慮した建築・サービスの提供や自社の活動に伴う環境負荷低減に取り組んでいます。



自然共生社会の実現に向けて

人と自然が融合する自然共生社会の実現に向け、生物多様性向上を目指して、自然が持つ多様な機能を多目的に活かす「グリーンインフラ(GI)」を導入したまちづくりを推進します。

● グリーンインフラ

グリーンインフラは、自然から提供される多面的な機能に注目し、それらの多様な活用方法を生み出すことで、様々な価値を創出し、持続可能な社会の実現を目指します。当社は、グリーンインフラを巧みに導入することで、環境負荷が少なく、災害に強く、健康を増進する都市・地域の実現を図り、グリーンインフラの整備や維持管理に多様な人が参加できる都市・地域の創生を目指します。



GIの5つの効果と「TAKENAKAのGI」が有する多目的性

● 清和台の森づくり

2017年に環境方針や生物多様性活動指針を具現化する「竹中生物多様性促進プログラム」の一つとして「清和台の森づくり」プロジェクトを立ち上げました。「清和台の森づくり」は、兵庫県川西市にある当社の研修所8haの敷地全体を自然共生実証フィールドとして、生態系・生物多様性保全のモデルをつくり、実践する活動で、①整備・保全、②体験型研修、③研究開発・環境技術発信、④ステークホルダーとの連携・協働という4つの活動を行います。この活動を通して、自然資本を支える生物多様性の保全を自分事化できる人材育成を行うとともに、ここで得た知見を建築作品やまちづくりへと活かし、お客様への価値提供へとつなげていきます。



清和台の森づくり研修

脱炭素社会の実現に向けて

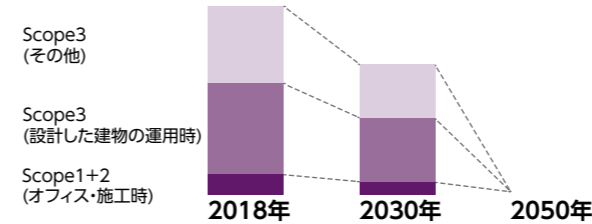
事業活動全般に関連するCO₂排出量の100%削減を目指し、目標設定しています。

CO₂削減長期目標

Scope1~3全体のCO₂排出量を削減する

2030年までに-35%
2050年までに-100%

CO₂削減イメージ



目標値 基準年: 2018年

項目	2030年目標	2050年目標
オフィス(Scope1+2)	-30%	-100%
施工時(Scope1+2)	-30%	-100%
当社設計建物の運用時	-40%	-100%
Scope1~3全体	-35%	-100%

※オフィスは竹中工務店及びグループ全体の目標。その他は竹中工務店の目標

● 目標達成に向けた取り組み

1. 自社のCO₂削減(オフィス活動・建設活動)

自社のエネルギー使用によるCO₂排出量(Scope1+2)を確実に削減するため、オフィス・作業所における省エネ活動や低炭素な施工技術の開発・採用に加え、作業所の仮設電源としてバイオマス発電によるCO₂フリー電力を採用するなど、再生可能エネルギーの導入を進めています。

気候変動への対応

・TCFDの提言に沿って、気候変動に関連する事業リスク・機会の分析を行い、情報を開示しています。

WEB 「データで見るCSRの取り組み」はこちら

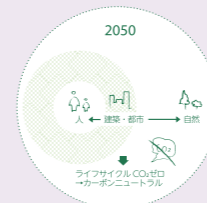
・今後の気候変動への対応に関して、設計段階・施工段階の対応についてKPIを設定して取り組んでいます。

P.37~38 サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画



● 環境コンセプト

当社は、2050年を見据えた「環境コンセプト」を2010年に掲げ、カーボンニュートラルな社会の実現に向けた活動に取り組んできました。



人の感性や創造性を高め、
 自然を活かし、ライフサイクルCO₂ゼロから
 カーボンニュートラルな社会の実現を目指す

● 環境コンセプトブック2021年版

脱炭素・資源循環・自然共生社会の実現に向けた当社の取り組み・ロードマップを紹介しています。



環境コンセプトブック

● 環境関連ページ

P.39 環境・社会に配慮した建築とサービスの展開

P.41 環境との調和

● WEB

CSR > サステナブル社会に向けた取り組み



働き方・生産性改革

―竹中新生産システムによる業務プロセス改革―

建設業界では技能者不足が深刻化する中、建設業の魅力向上と生産力の確保を見据えた2020年の建設業法改正により、適正工期の確保が法制化されました。また改正労働基準法における時間外労働時間の上限規制が2024年4月から建設業にも適用されます。この現在及び将来の社会変化と働き方改革へ対応し、お客様のニーズに応え新たな価値を生み出すことが、私たちが目指す新しい建築生産のかたちです。その目指す姿の実現に向けた生産性向上による建築生産変革の取り組みを「竹中新生産システム」として展開しています。

生産性向上のためのオープンBIM

生産現場における新たな業務スタイルとしてBIMデータを元にしたデジタルデータに基づくものづくりを推進しています。当社は様々なステークホルダーが特定のBIMソフトに縛られず、国際共通フォーマットのIFCによるデータ共有・連携が可能な「オープンBIM」を採用しています。発注者や設計事務所のみならず、協力会社までプロジェクトに関わる多くの関係者とBIMモデルを含む最新情報をタイムリーかつ確実に共有することにより、精度の高い確実なものづくりを実現しています。現在ではBIMモデルを中心としたデータを第三者機関による検査やファシリティマネジメントに活用し始めており、プロセス全体での生産性向上に取り組み、全てのステークホルダーにとっての働き方改革実現を目指します。今後も設計・生産・施設運営全てのプロセスにおいて、より高効率でスムーズなデータ環境の構築を進め、多くの関係者にとって魅力あふれたものづくりに取り組みます。



新生産システムのコンセプトはこちら

オフサイト化[※]への取り組み

BIMモデルのデータを活用することにより、オフサイト化への取り組みがさらに進化しています。BIMモデルを活用することで、もの決めのプロセスが確実に迅速に行われ、施工方法まで含んだ精密な検証が実施可能になっています。時にはバーチャル空間により事前の品質確認を関係者間で行ってからプレキャスト部材などの製作につなげています。その他、鉄骨や金属工事、設備工事などの職種では

※オフサイト化:工場や場外・場内ヤードでのプレファブ리케이션

静岡営業所・岡山営業所建替計画における取り組み

当社の静岡営業所・岡山営業所建替計画では、竹中新生産システムのモデルプロジェクトとして「業務プロセス改革」に取り組みました。竹中新生産システムでは、施工管理者、建設技能者ともに2025年を目指す時間当たりの生産性向上目標を25%と設定しています。静岡営業所建替計画においては、複雑な納まりを勘案した施工BIMモデルの早期作成と早期発注により、複雑な形状のRC造でありながら建設技能者の

BIMモデルのデータを直接機械に流し込んで製作するデジタルファブ리케이션への取り組みが盛んに実施されており、作業所による効率向上や品質・安全面での改善を実現しています。今後も協力会社との連携を深め、良いデータを良い製品づくりにつなげていくことにより、生産性の向上を達成するとともに働きやすく安全な職場づくりに貢献していきます。

生産性を約17%向上させることができました。また、鉄骨造の岡山営業所建替計画においては、もの決め、図面確定からデジタルファブ리케이션によるフロントローディング効果が発揮され、施工管理者、建設技能者ともに生産性を約25%向上させることができました。(数字は対2018年比)



モデルプロジェクト



静岡営業所



岡山営業所

新生産システム・BIMを使用して

VOICE

静岡営業所建替計画 工事担当 伊藤 幸さん

躯体図をBIMモデルから平面・断面を切り出して作成しました。平面と断面の相違がないことは非常に重要で、施工図確認の効率が上がりました。また、BIMモデルを建設技能者と共有できたので複雑な形状の建物形状について共通認識を持つことができました。特殊な形状であったため、複雑な躯体・仕上げを問題なく進めることができたのは大きな成果と感じています。このプロジェクトを通して得ることができた、他本支店の社内の人脈と残業時間を削減する働き方を、今後に活かしていきたいです。



VOICE

岡山営業所建替計画 工事担当 南 大地さん

全て違う長さのパイプをつなげて製作している外装ルーバーにおいてBIMモデルの効果を発揮できたと思います。重ね合わせを行うことで、仕上げの納まりについて建設技能者とも共通認識を簡単に持つことができました。BIMモデルからの2D図面の切り出しなど、躯体寸法へのフィードバックが容易となりました。初めてのBIM使用でしたが、作業所の中核を担うことができ、ステップアップを実感できました。また、1人作業所でも、着工までのもの決めに徹底することで、休日出勤等を無くすることができることを実感しました。



持続可能な建築・まちづくり

—MACHInnovation® (マチノベーション)の推進—

当社は2019年4月以降3自治体（雲南市、小川町、塩尻市）と、地域課題解決と市民の豊かな暮らし創造に資するため「連携協定」を締結してまちづくりに取り組んでいます。また、当社東京本店が所在する江東区においても「イーストベイ構想」と銘打って、「新しいまちづくり」に挑戦しています。それぞれの地域の資源を活かしながら、これから目指す社会やまちの姿を描き、社会課題解決に向けた仮説をつくり、地域の方々とともに実証実験を行いながら検証・実装を進めています。このようなまちづくり活動を「MACHInnovation® (マチノベーション)」と名付け、まちづくりから社会システムの構築に向けて活動を広げていきます。

長野県塩尻市と連携したまちづくり活動

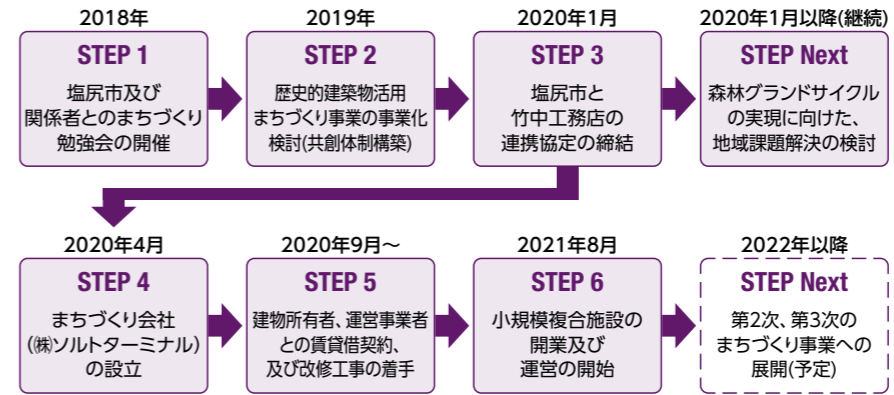
2020年1月に当社と塩尻市は木材利用を通じた林業再生・経済循環を生み出す「森林ブランドサイクル®」を旗印にした連携協定を締結しました。これにより塩尻市の地域課題の解決と、当社のまちづくり事業の創出を目指す枠組みを創りました。連携事項の一つに、「歴史的建物資源や文化資源の活用等に関すること」を掲げており、塩尻市が誇る歴史・文化資源である奈良井宿の再生に取り組んでいます。奈良井宿は、文化庁の重要伝統的建造物群保存地区に指定され、美しい町並みが残る木曾路の宿場町で、年間60万人超の木曾路随一の来訪者数を誇ります。しかし、来訪者平均消費金額は920円と低く、多様な層への幅広い魅力づくりと滞在時間を増やしていくことが課題です。また、近年、高齢化によるまちの担い手不足や空き家の増加も深刻な課題でした。

そこで、かつてまちの象徴的存在であった旧杉の森酒造と旧豊飯豊衣（ほいほい）民宿の空き家を中心に、複数の古民家群を活用し、宿泊・飲食施設などの高付加価値型の小規模複合施設に用途転換することで、空き家再生、まちの魅力増大を図りました。また、運営スタッフも住みながら働く仕組みを実装し、まちの担い手も増やしていくことを狙ってプロジェクトをスタートさせました。さらに「森林ブランドサイクル®」実現の一環として、地元木材チップによるバイオマスボイラーにより、風呂や空間を自然エネルギーで温める仕組みも実装しました。今回の第一次事業がまちの魅力向上につながり、このまちで第二次、第三次の事業展開となって、地方における新しい経済循環が生まれていくことを期待しています。



旧杉の森酒造の奥座敷を改修した「BYAKU Narai」客室「百五」

■ 塩尻市との連携活動と同市奈良井地区での活動経緯と今後の展開



中山道の奈良井宿の町並み

その他のMACHInnovation®の活動

2019年4月、ヤマハ発動機及びNPO法人ETIC.とともに当社初の連携協定を締結した島根県雲南市に当社社員を研修派遣し、企業チャレンジの事務局として多くの企業と連携した活動を行いました。ここでの活動は、北海道厚真町はじめ全国に広がりつつあります。また、大阪では御堂筋まちづくりネットワークはじめ、多くのエリアマネジメント団体に参加してまちづくり活動を展開しています。これらの活動の評価を受け、国内の他地域でも共創が始まりました。今後は、これまでの各地域での活動で得た知見や経験を活かし、社会課題解決を実現するまちづくり総合エンジニアリング企業としてMACHInnovation®を推進していきます。

● 小川町における石蔵改修

埼玉県小川町では、以前からまちの有志による様々な活動に築約100年の石蔵が活用されてきました。当社がNPO法人あかりえとともに2019年11月に小川町と締結した連携協定に基づき、公的資金を活用してこの石蔵を改修し、まちのロビー機能とコワーキングスペースを兼ねた「コワーキングロビーNESTo」として再整備しました。年々増加している移住者や、コロナ禍での新たな働き方により利用ニーズが高まっていた機能がまちに誕生したことで、新たな関係人口や移住を促すとともに、小川町での暮らしや仕事と出会う場としての運営が始まっています。



御堂筋での社会実験

北海道厚真町
厚真にぎわい会議

埼玉県小川町
森林ブランドサイクル
石蔵コワーキングロビーNESTo



コワーキングロビーNESToの外観



NESToの内部

長野県塩尻市
森林ブランドサイクル
奈良井宿(重要伝統的建造物群保存地区)
古民家改修プロジェクト

島根県雲南市
ソーシャルチャレンジバレー
健康なコミュニティ

東京都江東区
イーストベイ構想
東陽・新砂地区運河ルネサンス協議会
アーバンワイナリー

大阪府大阪市
エリアマネジメント(御堂筋、大阪ビジネスパーク、中之島)

● イーストベイ構想

当社の東京本店が立地し、今後臨海部のまちづくりが期待される江東区の湾岸・運河エリアにおいて、「イーストベイ構想」という未来像を掲げてまちづくりを進めています。このエリアが水門に囲まれた運河や川を持つ親水性の高いエリアである特徴を活かし、東京都港湾局の運河ルネサンス推進地区の指定も受け、水域の活用・活性化により陸域の価値向上を目指して、様々なステークホルダーの方々と協働し実践しています。



イーストベイ運河(水辺のミニ実験)

詳細は、MACHInnovation
コンセプトブックをご覧ください



お客様の想いをかたちに

建物に求められる機能は高度化、多様化しています。
「サステナブル・ワークス®」「総合力から生まれるデザイン」「魅力再生®」などに
持続的に取り組みながら、建築の新たな価値創造にチャレンジしています。



サステナブル・ワークス®

当社が提唱する「サステナブル・ワークス」とは、「お客様とともに環境に調和する空間創造を行うことを目指した建築への取り組み」を意味します。持続可能な社会を次世代に手渡すための建築からのアプローチであり、地球環境や社会に貢献したいと願うお客様の想いをかたちにするお手伝いでもあります。



MIYASHITA PARK

—多様性を受け入れる緑の浮島—

設計施工：竹中工務店
プロジェクトアーキテクト：日建設計（2020）

下層に都市計画駐車場を持つ「東京初の空中公園」と謳われた渋谷区立宮下公園のPPP事業としての建替えです。JR山手線と明治通り、渋谷川暗渠に挟まれた長さ約330mの公園全体を立体都市公園制度を活用し、地上約17mに浮かせ、下層に商業施設、原宿側端部にホテルを併設しています。多種多様な人々の交流や多様なライフスタイルを受け入れる新しい形の都市公園、良質な都市のインフラとなることを目指しています。



都市公園の立体化による公園用地の有効活用

立体都市公園制度を活用した公園では、街路からの動線やつながりを重要視しています。南北両端には大階段などを配置し、渋谷側、原宿側からのスムーズな動線を確保しています。また、中央では美竹通りに公園をかぶせ、通りを見下ろせる象徴的な大階段を設置することで、公園の開放性を下階につなげる試みを行いました。



緑化と動線が賑わいを生む約330mのファサード

歩道橋やキャットストリートが交差する部分には、建物と併せて縦動線を配置し、来訪者がスムーズに公園に至ることができるよう工夫をしています。また、ツインアーチ構造を持つ緑の天蓋により建物全体を覆うことで、公園に木陰をつくりながら、街路への緑視率を向上させ、地上街路と上空の公園をつなげることを意図しました。



人々の活力を受け入れる器としての新しい都市型公園

渋谷区立宮下公園は、植栽と園路、施設を幾何学的に配置することで隣接するホテルや駅周辺の超高層ビルからの俯瞰に意識の高いプレゼンスを持たせました。都市交通を含む都市インフラに挟まれた中洲のようなこの施設に、風が抜け、緑でつつまれた広い空の下で、訪れる人々の活力を受け入れる場所を創出しました。



公園の心地よさを感じられるオープンエアな商業施設

敷地形状を生かし、商業施設通路の7割を風が抜けるアウトモールとすることで、渋谷の散策文化やストリートカルチャーを体験できる空間構成としました。建築はあえてスケルトンとして土木的な表情を持たせることで、緑の賑わいやテナントを際立たせながら、商業の可変性を高めることを意図しました。



2つの街区をつなげる土木スケールのブリッジ

旧宮下公園では分断されていた南北2つの街区は、道路上空にブリッジ状の人工地盤をかけることで、南北一体の新しい渋谷区立宮下公園を実現。さらに、大階段により公園へ至る十分な通路幅を確保することで、上空の公園へいざなう土木スケールのダイナミズムを感じられる空間としました。



渋谷の多様性を表現したシンボリックなタワー

北西端部に位置するホテルは、渋谷特有のダイバーシティ文化と施設の持つ多様な個性を建築の外観として表現するため、外装は4色のコンクリート素地打放しPCa板をランダム配置にて構成しています。建築素材が持つ力強さにより新たな渋谷のランドマークになることを目指しました。

お客様の想いをかたちに



外観には立体ボロノイによる空間構成がそのまま現れ、まちと工場との新たな関係をつくり出し、その技術力を発信します。

三栄建設 鉄構事業本部新事務所

一関係性を紡ぎ出すー

設計施工：竹中工務店(2020)



鉄骨架構モデル

総合力から生まれるデザイン

建築鉄骨の製造業を営む建築主が、その技術力に矜持や誇りを持ちながら、部署間の連携を強化した働き方ができるよう、立体ボロノイ*による空間構成とし、その複雑な鉄骨架構をコンピュータシヨナルデザインやBIM・CAMといった最新のデジタル技術と作業員の職人技によって実現しました。

※立体ボロノイ：空間上に配置された複数の隣り合う母点間を結ぶ直線の垂直二等分面により各母点の最近隣領域を分割する手法



各所をつなぐコミュニケーションスペースには従業員が行き交い、偶発的な出会いや対話を生み出します。



ワークスペースのインテリアには、柱・梁のみならず、スラブ(床)も鉄でつくられていることが現れます。



複雑な鉄骨架構が現れた従業員エントランスは、工場に向かって開かれた作業員との交流スペースでもあります。



堀ビル/GOOD OFFICE新橋

歴史を継承し、未来にひらく

1932年創建の登録有形文化財を当社がマスターリースし、イノベーションを促すシェアオフィスに改修しました。創建時の空間性や経年の味わいに現代的な設備や家具を合わせ、事業とデザインと技術で建物の価値と魅力を最大限に活かす再生事例です。

[日本空間デザイン賞2021]
ショートリスト入賞、サステナブル空間賞受賞

原設計：小林正紹、公保敏雄
改修設計・改修工事：竹中工務店(2021)



大丸心斎橋本店

創建当初の姿を留めるシンボリックの外壁を保存再生
意匠的価値の高い内装部位は再利用し、店舗空間を復元。
J.フロント リテイリングのESG推進フラッグシップ店舗として
「再生可能エネルギー100%使用」など低炭素・循環型社会
への取り組みを行い、2020年度のCO₂排出量は建替え前の
2015年比で約7,000t-CO₂の削減を達成しています。

MIPI Asia Awards 2020 SILVER AWARD
第62回BCS賞

原設計：ウィリアム・メレル・ヴォーリズ(1922 I期～1933 I期)
施工：竹中工務店(1922 I期～1933 I期)
基本設計・監修：日建設計(2019)
実施設計・監理・施工：竹中工務店(2019)

魅力再生®

建物は私たちの生命や財産を守る器であるとともに、社会全体の資産でもあります。当社の提唱する「魅力再生®」では、時を経た建物に新築時の機能や美観を回復させるだけでなく、新たな機能を付加することで資産価値を高め、事業性を向上させることを目指しています。

SDGsの視点からも、「スクラップ&ビルドからストック活用へ」という価値観が広く浸透しつつある現在、時代にそぐわなくなった建物の機能や性能の向上のみならず、歴史的意義をもつ建物の保存・再生や、用途変更(コンバージョン)によるレガシー活用など、社会的ニーズは多様化・高度化しています。「魅力再生®」プロジェクトでは、これまでに培った設計力や技術力を活かし、様々に変化するニーズに応えることで社会に貢献しています。



旧国立駅舎再築

都内現存最古の木造駅舎文化財の復元再築

国立市が市民要望を受け、解体の憂き目にあった木造駅舎を再築。4000点超の史料に基づき創建当初の意匠復元を行い、古材再利用率約70%を達成、耐震補強・空調・展示照明などの機能向上も図りました。不要古材も家具などに再生させ、建材ロス削減により木材資源の有効活用を果たしました。

設計施工：竹中工務店(2020)



お客様のグローバルな事業活動をサポート —各国・地域に貢献—

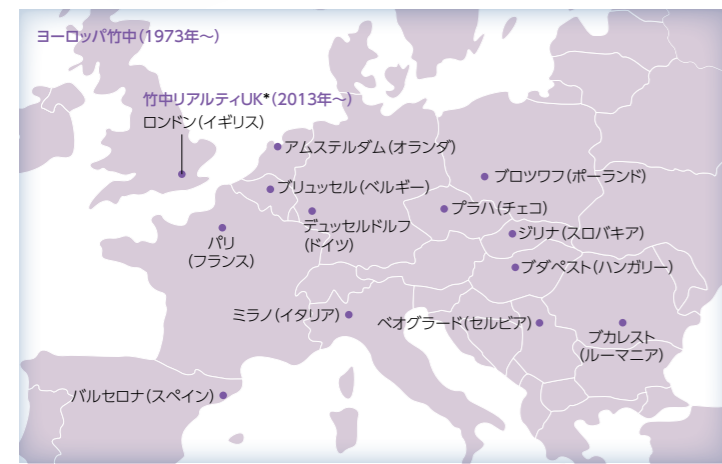
長い歴史をもつ当社の海外活動は、1960年のアメリカ進出をきっかけに本格化し、現在では世界各地にネットワークを広げています。

海外進出を目指す日本企業、各国公的機関や現地企業などをお客様に、国際空港から超高層オフィス・ホテル・工場・美術館など、多彩なプロジェクトを手掛けてきました。設計施工はもとより、技術支援・コンサルティング業務など、活動範囲も多岐にわたっています。

海外の主な営業拠点を掲載しています

■ ヨーロッパ

1973年にドイツ・デュッセルドルフに事務所を開設して49年。ヨーロッパ竹中は、これまで1,500以上の工事を手掛けてきました。現在では13か国に展開する拠点で活動する約50名の駐在員と約600名のローカルスタッフが連携し、ヨーロッパ域内への進出を検討されているお客様を支援しています。



* 開発事業

ヨーロッパ

アジア/中国

■ アジア / 中国

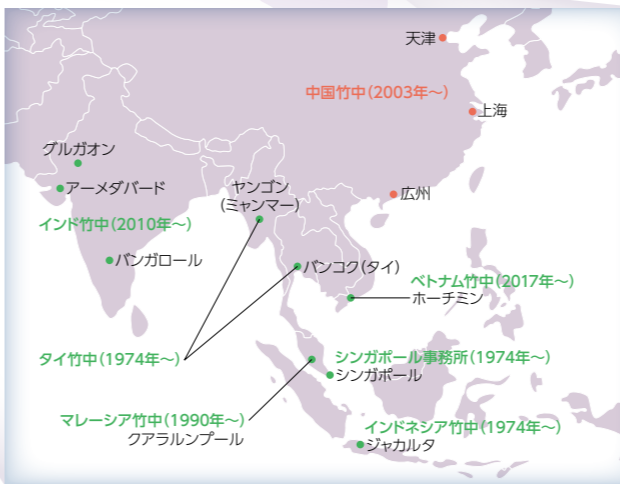
タイ、シンガポール、インドネシアにおいては拠点設立から48年目を迎えました。マレーシアでは2020年に拠点設立から30年目を迎えました。2017年にはベトナムに拠点を設立し、現在8か国で展開しています。中国を含めたアジア地域への駐在員は約70名、ローカルスタッフは約1,300名が活動しています。プロジェクトの規模や建築種別にかかわらず幅広く対応しています。

セルビア共和国にヨーロッパ竹中の支店を設立

ヨーロッパ竹中は、セルビア共和国に新たに支店を設立しました。セルビア共和国は、2012年のEU加盟候補国入り以降、投資環境の整備を着実に進めており、近年では多国籍企業による投資先としての魅力が高まっています。当社では、欧州市場に展開するお客様の様々な建設ニーズに応えるべく、欧州におけるこれまでの拠点網に新たにセルビア共和国を加え、受注・生産活動から維持・修繕までの一貫したソリューションを、広域的に提供することを目指します。



アメリカ



* 開発事業

■ アメリカ

当社はアメリカへ1960年に進出し海外事業の礎を築きました。現在は開発事業及びコンサルティング事業を中心に活動しています。



ジャガー・ランドローバースロバキア新工場(2018 スロバキア)



イオンモール ジャカルタガーデンシティ(2017 インドネシア)



チャンギ空港 第4ターミナルビル(2017 シンガポール)



パシフィック センチュリー プレイス ジャカルタ(2017 インドネシア)



キャピタグリーン(2014 シンガポール)



Daimlerポランドバッテリー組立工場(2020 ポーランド)



マキタ ルーマニア工場4期増築(2019 ルーマニア)



コンチネンタルタイヤ タイ新工場(2018 タイ)



IKEAマレーシア物流センター(2020 マレーシア)



三光合成グジャラート新工場(2018 インド)



無錫村田電子有限公司第二工場(2020 中国)



シンガポール国立美術館保存再生(2015 シンガポール)



ハマド国際空港 王族・国賓専用ターミナル(2013 カタール)

まちづくりで新たな価値を創造する

東京都心部、横浜、名古屋駅前、大阪都心部において当社は数々の都市再生プロジェクトの企画や設計、施工を手掛けてきました。また、市街地再開発事業やPPP/PFI事業、自社開発事業、まちづくり組織への参画なども積極的に行っています。当社はまちづくりへの様々な取り組みを通じて、国際競争力の強化、安全・安心の向上、環境共生など都市が抱える課題やニーズの解決に貢献しています。



【市街地再開発事業】

渋谷 パルコ・ヒューリックビル

渋谷駅周辺地区のまちの魅力向上に資する新たなタイプの都市再生特区提案の支援、特定業務代行者として再開発事業の推進、設計・施工、エリアマネジメント運営支援などを行い、2019年11月にオープンしました。渋谷の坂や通り、まちの界限性を建物外周部に立体街路として取り入れ、パルコならではの個性的な店舗や劇場、インキュベーション施設、先進的オフィス、広場などを有機的に連携させ、ファッション・アート・演劇文化、クリエイターの育成・情報発信拠点として、まちの新たなにぎわい創出に貢献しています。



設計施工=竹中工務店



【PPP/PFI事業】

横浜みなとみらい国際コンベンションセンター(通称:パシフィック横浜ノース)

本事業は、グローバルMICE戦略都市を掲げる横浜市が、国際会議で有名なパシフィック横浜の機能強化を目的として新たにMICE施設(PFI事業)とホテル(民間収益事業)を複合的に整備・管理する事業者を募集したもので、当社は代表企業として2015年に当選を果たし、2020年春に竣工しました。豊かな歩行者ネットワークの整備やミナトヨコハマの景観形成など、まちづくりにも寄与しています。

※MICE: Meeting・Incentive・Convention・Event / Exhibition

MICE 設計=竹中工務店(JV) 施工=竹中工務店(JV)
ホテル 基本構想=竹中工務店



【国内開発事業】

京都東山計画(山荘 京大和・パーク ハイアット 京都)

当社の自社開発として、開発から設計・施工・運営まで一貫して手掛けたプロジェクトです。2019年10月、京都の街と八坂の塔を同時に望むことができる絶好のロケーションに、70室のラグジュアリーホテルが誕生しました。「山荘 京大和」が引き続き料亭事業を行う歴史的建築物や庭園などを保存・復元することで、伝統と新しい文化を融合させてきた京都らしさを取り入れました。

設計施工=竹中工務店 インテリアデザイン=トニーチャー+竹中工務店
作庭=北山安夫



横浜市役所

横浜市の行政・議会機能に加え、文化芸術事業などが行えるアトリウムを備える新市庁舎です。設計・施工者として基本設計から参画し、開かれた市庁舎と新たな都市景観の創出に取り組むだけでなく、ワークショップやシンポジウムなどにより、市民の関心向上や地域貢献活動を行いました。

設計・監理=竹中工務店・横総合計画事務所
NTTファシリティーズ
施工=竹中工務店(JV)

大阪梅田ツインタワーズ・サウス

(2022年竣工)

西日本最大のターミナルに位置する百貨店・オフィス・カンファレンスホールの複合施設です。道路上空を活用して隣接する二つの街区のビルを一体的に建替えるとともに、歩道やデッキ等の周辺公共施設整備を行いました。当社は実施設計、各種申請、施工、企画支援と、本開発の周辺地域のエリアマネジメントを行っています。

基本設計 = 日本設計
設計施工=竹中工務店

あべのハルカス・てんしば

高さ日本一の「あべのハルカス」と、近傍に完成した広大な芝生広場をもつ公園リニューアルプロジェクト「てんしば」は、周辺エリアに大きなインパクトをもたらしました。いずれも当社で企画支援、設計・施工したもので、エリア全体の集客と魅力の向上に貢献しています。



あべのハルカス
設計・監理=竹中工務店
外装デザイン=竹中工務店+ペリクラーク ペリアーキテツク
施工=竹中工務店(JV)
てんしば
設計施工=竹中工務店

うめきた開発

JR大阪駅の北側で、1期(グランフロント大阪)・2期(うめきた2期地区)を合わせて区域面積24ha、総延床面積100万㎡を超えるまちづくりを進めています。当社は企画・設計・施工の役割に加え、共同事業者として開発に参画しています。

グランフロント大阪(1期)

先行開発区域約7haで、延床面積約57万㎡の大規模複合開発です。2013年に竣工しました。

基本設計=日建設計、三菱地所設計、NTTファシリティーズ
実施設計=日建設計、三菱地所設計、NTTファシリティーズ
竹中工務店、大林組
施工=竹中工務店(JV)

うめきた2期地区

(2024年夏頃 先行まちびらき、2027年度 全体開業)
開発事業者が、中央の都市計画公園(4.5ha)と民間宅地を一体的に整備・開発・運営する新しいまちづくりプロジェクトです。

設計=(南街区賃貸棟)三菱地所設計、日建設計、竹中工務店、大林組
(北街区賃貸棟)日建設計、竹中工務店
施工=竹中工務店(JV)

大手センタービル

当社が東京・大手町に手掛けた開発事業プロジェクトです。利便性の高い立地条件を備え、大規模改修工事により、快適なビジネス環境を提供しています。

設計施工=竹中工務店

400/430 California

米国サンフランシスコ市金融街の中心部に建つ本物件は、ランドマーク指定を受けた部分の保存・耐震改修を含む全面リニューアルという当社の特性を生かした「Value Add」型プロジェクトです。

お客様の課題に最適なソリューションを

市場変化に追従したスピーディーな対応、高度な建物環境、様々な安全・安心が求められています。当社は、お客様のニーズに対し、企画段階から計画・設計・施工・アフターケアまでトータルエンジニアリングでお応えします。

木造・木質建築

当社が開発した耐火集成材「燃エンウッド®」やCLT®などの豊富な木造ソリューションにより中高層木造建築を推進し、お客様の環境経営とサステナブル社会の実現に貢献します。2021年には日本初となる耐火木造12階建て商業施設「HULIC & New GINZA 8」が竣工したほか、2025年を目標に当社が構想する地上20階建て木造ハイブリッド建築「Alta Ligna Tower」の実現を目指します。

※CLT: Cross Laminated Timber (直交集成板)の略



高層木造建築モデル Alta Ligna Tower

サーキュラー・エコノミー(循環型社会)への貢献

SDGsや脱炭素が重要な社会課題になる中、当社は様々なソリューションで解決を図ります。例えば、敷地内で生ごみを処理し、生成したバイオガスをエネルギーとして利用する「メタファーム®」。あべのハルカスでは3トン/日の生ごみを安定的に処理しているほか、より少量の生ごみにも対応できる小型のシステムが2021年秋に運転を開始しました。



「環境配慮型ショッピングセンター」メタファーム®



商業施設導入イメージ

スマートコミュニティの実現に向けて

当社は人中心のサステナブルな社会の実現に向けて、スマートコミュニティの取り組みを進めています。コンセプトに「ともにつくる、心と地球にちょうどいい未来」を掲げ、様々なステークホルダーとともに地球に優しく、安心して暮らせる活力あふれるまちづくりを目指しています。

例えば、3D都市モデルを活用した物流シミュレータや、建設MaaS®で人の移動や資材の搬送を最適化しながら、人とサービスロボットとの共存が図れるまち実現へ向けた技術の開発や実証を進めています。

※MaaS: Mobility as a Serviceの略



国交省3D都市モデルを活用したサービス実証に参画



安心して暮らせる、心地よき 心地よき 地球とともに生きる、心地よき コンセプトイメージ



デジタル基盤を活用した先進サービス検討

コモンクラウド・リビングラボ

デジタルツインの共同実験場「コモンクラウド・リビングラボ」では、当社が開発したクラウド型の建物データプラットフォーム「ビルコム®」が採用されています。これにより様々な情報を都市や建築などの3次元データに紐づけることで、人やロボットが共存できる環境づくりを目指しています。例えば、カメラやIoTセンサで得た情報を実空間とデジタル空間の間でリアルタイムに共有することで、自立型モビリティの実現に向けた取り組みを進めています。こうしたデジタルツインの実証を積み重ね、大阪・関西万博やスマートシティの実現にも貢献したいと考えています。

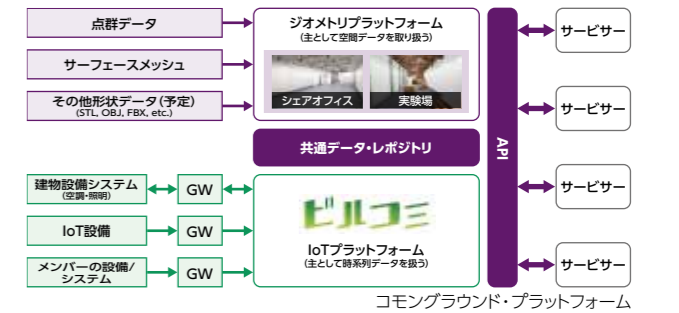
https://www.cgll.osaka/



画像認識による着衣量判定



ゲームエンジンによる描画(ロボット実験場)



コモンクラウド・プラットフォーム



ロボット実験場

人流データの活用による建物運用の最適化

AI(人工知能)を活用し、計画段階で完成後の人流を予測することで、集客施設や生産施設などの建築プランや動線の最適化を図ります。例えば、通路の幅や展示物の配置を変えた複数プランでの人流を比較し、混雑が少なくスムーズに利用できる建築プランをご提案します。また、完成後にはIoTセンサなどで人流データを取得し予測値と比較することで、案内表示の追加などによる行動変容につなげ、最適な建物運用に活かします。



ペDESTリアンデッキの通路幅変更による混雑シミュレーション

BCP・地震リスク対策

近年、地震が頻発していることからBCPにおける地震リスク対策が重視されています。庁舎、病院、研究施設などの重要機能の維持に有効な免震技術について、当社は多様なソリューションを提供しています。例えば、重要な部屋だけを免震化する費用対効果の高い「部屋免震システム」や、日常の維持管理から地震後の健全度推定機能までカバーした「免震建物の総合モニタリングシステム」など、お客様のニーズに応じたソリューションで、より一層の安全・安心を届けていきます。



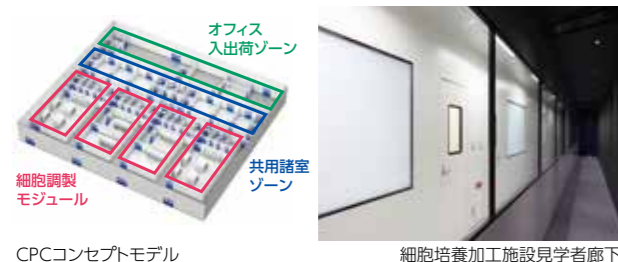
部屋免震システム

お客様の課題に最適なソリューションを

バイオ・再生医療を支えるエンジニアリング

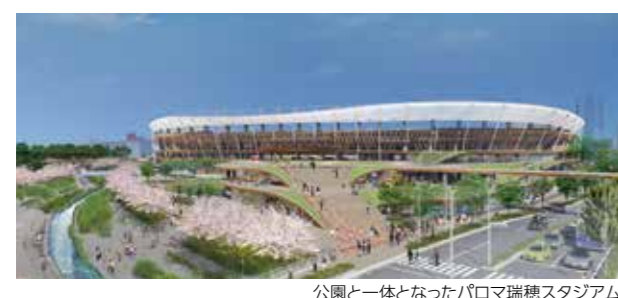
目覚ましい進展を遂げるバイオ医薬品や再生医療に対応するため、その研究・製造施設には高度な安全性や柔軟性、短期での構築などが求められています。これらのニーズに応えるため、当社は、研究内容や製造方式の変化に追従できる細胞培養加工施設「CPCコンセプトモデル」や関連施設をスピーディに構築できる「BiBoT®シリーズ」などのソリューションを提供するとともに、竹中技術研究所のバイオクリーン・バイオセーフティ実験室において新技術の開発や実証を進めています。

バイオクリーン・バイオセーフティ技術



時代とともに歩むスタジアム・アリーナ

当社は5大ドームなどの大規模スポーツスタジアムからイベント中心のアリーナまで、数多くのスポーツ集客施設を手掛けてきました。構想段階から実現に向けて、感染症対策などの社会ニーズの変化や収益性向上に寄与する多目的利用、進化し続ける通信技術などに対応するソリューション、さらにこれらの施設を防災拠点とした周辺地域全体の安全性向上や、地域活性化にも貢献していきます。今後も時代とともに歩むスタジアム・アリーナをお客様へ提供していきます。



公園と一体となったパロマ瑞穂スタジアム



まちなかスタジアムとしての長崎スタジアム

工場内物流の自動化・省人化

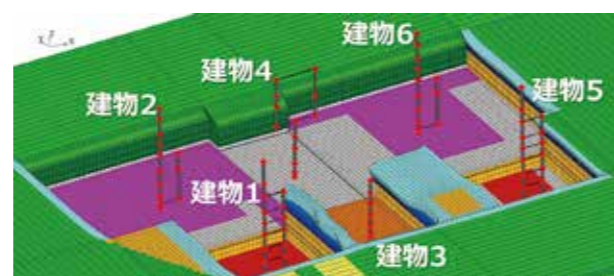
製造・物流施設ではさらなる生産性向上のため、自動化・省人化設備の導入やIoTの活用が進んでいます。当社は、客観的なデータに基づくIE手法を用いた独自のロジスティクスエンジニアリングを展開し、自動化・省人化を図るソリューションを提供するとともに、様々な産業分野のプロジェクトで培ったノウハウを施設計画に活かすことで、新規の施設建設だけでなく、既存施設の再構築まで、お客様の期待に応えていきます。



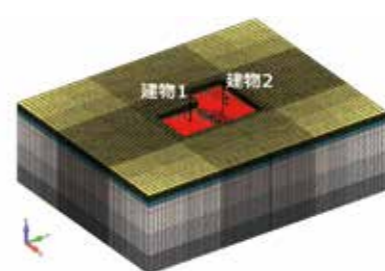
自動倉庫・搬送システム納入事例(左右とも)

高度解析技術による建物の安全性の検証

東北地方太平洋沖地震などの大地震を契機として、原子力施設や官公庁・病院などの重要施設は、巨大地震等に対する厳格な安全性が社会から求められるようになってきました。当社は、業界トップ性能のスーパーコンピューターと解析ソフトをフル活用し、広範囲の地盤と複数の建物の挙動が同時に説明できる高精度な解析技術を保有し、数多くのお客様の課題解決や許認可取得に貢献しています。



地盤と複数建物の連成解析①



地盤と複数建物の連成解析②

New Normal 時代に向けた取り組み



当社は幅広い分野の専門性を結集するとともに、ニューノーマル時代に求められる多様な生活変容やそれにふさわしい空間を、お客様とともに考えます。

働くための空間を考える

コロナ禍を経験し、テレワークなど多様な働き方が普及しました。「働くための空間」をテーマに様々なステークホルダーと対話を重ね、働く場の再構築についてまとめました。ニューノーマル時代に求められるリアルなオフィス空間の役割をお客様とともに考え、提供します。



ニューノーマル時代のワークプレイスの例

お客様の課題を解決する5つのソリューション

コロナ禍におけるお客様の課題とソリューションを5つに整理しました。実績に基づく対策技術の提案とともに、新規技術の開発も進めています。

① 空気をきれいにする



人検知センサによって密接状態を判定し、人が集中するエリアのみ換気量を増強することで、安全と省エネルギーを両立します。

② 働き方・施設の使い方を考える



ワークショップなどを通して、ニューノーマル時代の新たな働き方、施設の使い方の合意形成を支援します。

③ 人との接触を減らす

人の流れの予測やリアルタイム計測技術を活用し、接触機会を減らす空間の運用を提案します。

④ 密集を避ける

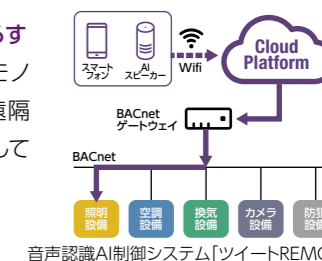
アルゴリズムに基づいて配色された座席に着席することで、ソーシャルディスタンスを確保できます。



大学の座席配色の例

⑤ ウイルスとの接触を減らす

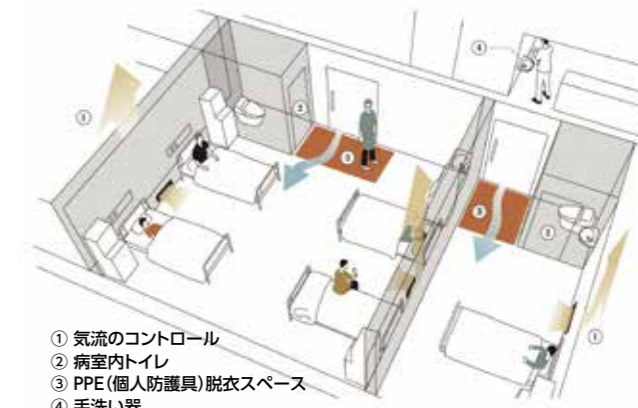
声や文字認識AIを使い、モノ（スイッチ等）に触れずに遠隔で、施設内外の機器を集約して制御します。



音声認識AI制御システム「ツイートREMO」

安心して医療を継続できる病院建築を考える

医療関係者とともに進めてきた新型コロナウイルス感染症対策を通じて得た知見を「パンデミックに備える4つの視点（人の動きのコントロール、空気のコントロール、クリーンな状態の維持、非接触・自動化）」として整理しました。これをもとに、パンデミック時に感染症患者を受け入れながら、通常の診療を継続することのできる病院建築のモデルプランを提案します。医療スタッフが院内感染リスクの少ない環境で働ける、安心・安全なこれからの病院建築をお客様とともに考えます。



院内感染のリスクを低減する病棟モデル

オープンイノベーションで技術開発を加速



お客様のニーズはますます多様化・高度化しており、これらに応える技術の進歩は目覚ましいものがあります。当社は建設基盤領域に留まらず、環境・社会領域や未来・先端領域においても、ステークホルダーの皆様とともにオープンイノベーションによる技術開発を積極的に推進し、社会の期待に応えるべく挑戦を続けています。

オープンイノベーションの推進

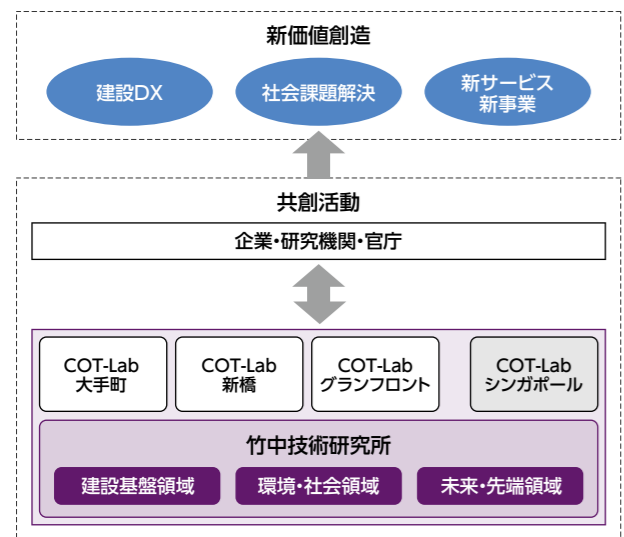
建設業界では、生産性向上や働き方改革などが喫緊の課題となっています。また、目まぐるしく変化する社会においては、気候変動への対策やWith/Afterコロナなどの新しい生活様式への適応、宇宙をはじめとするフロンティアの開拓など、多種多様な課題が次々と生まれています。

その一方で、DX (Digital Transformation, デジタル変革) や AI・ロボットなど、これらの課題の解決に向けた技術革新はスピードを増しています。

この流れに追従するため、当社はオープンイノベーションを積極的に取り入れ、先進技術の研究開発を加速しています。例えば、2018年に活動拠点を開設した米国シリコンバレーでは、アクセラレータのPlug&PlayやベンチャーキャピタルのUrban Usなどと連携し、最先端技術の探索活動を強化してきました。このように、日本国内のみならず世界中から常に最先端の技術情報が集まる仕組みを構築しています。

こうして得られた有望な技術やビジネスモデルについては、国内外に開設した竹中オープンラボ「COT-Lab®」で社会実装に向けた有用性の検証を行っています。60年を超える研究開発の実績を有する竹中技術研究所を核に、東京、大阪及びシンガポールの拠点に当社及び多様な企業や組織の人々が集い、活発な共創活動を繰り広げています。

当社はこうした活動を通じて、人々の安全・安心・快適な暮らしを支える新たな価値を提供したいと考えています。



オープンイノベーションの推進体制

建設分野のオープンイノベーション

建設労働者の高齢化や労働時間などに対応するとともに、建設業の魅力を向上するため、業務の効率化を図ることは必須の課題です。当社は「建設DX」を重要施策の一つに掲げ、IoTやAI、ロボットなどの先進技術による設計施工プロセスの省人化・省力化に取り組んでいます。

建設工事記録のデジタル化

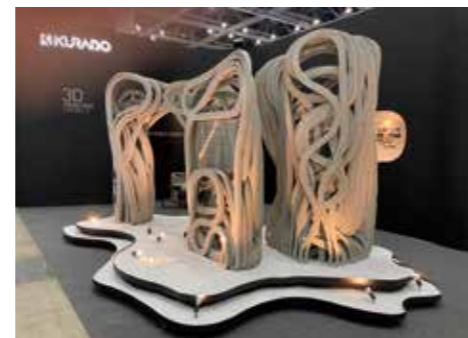
クラウドサービス「Holobuilder」を用いて日々変化する工事状況を記録・共有し、進捗の確認や関係者間の合意形成を迅速に行えるようにします。



建設工事記録のDX

建設用3Dプリンターの活用

クラブウと共同で、3Dプリンターによる柱や梁などの構造体の構築工法を開発しています。鉄筋コンクリート造に必要な型枠が不要となり、大幅な生産性の向上に寄与します。



3Dプリンターで制作したオブジェ

建設ロボット・IoT分野での業界連携

当社を含む建設3社で始動した技術提携の動きが16社参加の「建設RX*コンソーシアム」に発展しています。建設ロボットやIoTアプリの開発を共同で推進しています。

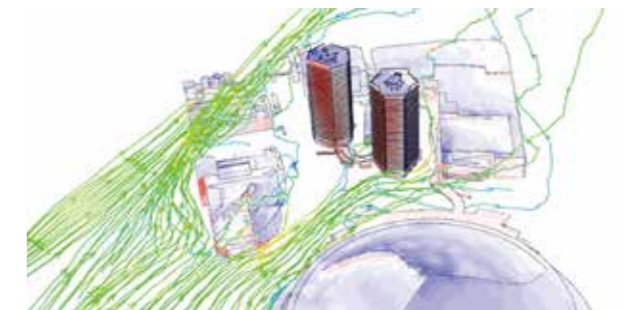
*RX: ロボティクストランスフォーメーション
デジタル変革(DX)になぞらえ、ロボット変革(Robotics Transformation)の意

環境・社会領域のオープンイノベーション

自然災害の激甚化、コロナ禍で一変した生活様式など、私たちを取り巻く状況は大きく変化しています。当社は「まちづくり総合エンジニアリング企業」として、サステナブル社会の実現及び人々の安全・安心・快適な暮らしに貢献する技術開発を積極的に推進しています。

気候変動がまちに及ぼす影響の評価

2021年にウェザーニューズと気候変動対策に関する協定を締結しました。当社が開発した建物周辺の風予測システム「Kazamidori®」などにウェザーニューズから提供される気候データを反映することで、強風、浸水、気温上昇などの気候変動リスクが建物やまちに及ぼす影響を評価します。



強風時の風の流れの可視化

人とロボット・モビリティが共存する社会

建物内からまちなかに至るまで、人と様々なロボットやモビリティが共存する社会の実現を目指して、建物設計データ(BIM)をベースとしたロボットプラットフォームを提唱し、ロボットメーカーとの連携を推進しています。



ロボットやモビリティと共存する社会

未来・先端領域のオープンイノベーション

有人月面探査、宇宙旅行・宇宙滞在、深海探査などのフロンティア開拓が注目されています。当社は宇宙や南極などの極地でも人が快適に生活できる未来を目指し、先進的な技術の研究開発に取り組んでいます。

人とまちの架け橋「サイバー都市ビューワー」

話題のイベントや評判のお店など、SNSに投稿された内容をAI(人工知能)を用いてリアルタイムに分析し、デジタル空間に構築したバーチャルなまちに投影します。こうして蓄積されるデータをベースにまちづくりに関わる複数の企業とのコミュニケーションを活性化して、賑わいのあるまちづくりなどに役立てています。



サイバー都市ビューアによるまちなかの賑わい分布

宇宙での快適な暮らしの実現

宇宙での快適な暮らしに向け、当社は「食と住」をテーマに研究開発を行っています。2021年にはJAXA、キリンホールディングス、千葉大学、東京理科大学と共同で国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟において、世界初の袋型培養槽技術によるレタスの栽培実験に成功しました。



星出宇宙飛行士による実験の様子

国内主要グループ会社の事業活動

まちのライフサイクルのあらゆるステージにおいて、当社をはじめグループ各社は、お客様の多様なニーズにお応えします。

■ 竹中土木

人と環境に優しいものづくりで「輝く企業」へ

竹中土木は竹中工務店グループの土木分野を担う会社として「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念のもと、安全・安心な社会資本の整備を通じ、人々の暮らしが豊かになることを願い、事業活動を行っています。

また、近年の社会環境を踏まえて、国土強靱化や防災・減災への取り組み、社会資本の長寿命化、DXを通じた生産性・業務改革、さらには脱炭素社会の実現を含むSDGsの推進などで企業価値のさらなる向上を目指しています。

そして「2025年ビジョン」で目指す会社像の実現に向け、全ての社員が想いを一つにし、着実に歩みを進めています。

コーポレートメッセージ「人と地球の架け橋に」を共有し、新たな分野にチャレンジするとともに社会的責任を果たしながら「魅力溢れる輝く企業」へ進化していきます。



北陸自動車道 上市スマートインターチェンジ工事



大分川ダム建設工事



和泉はつが野三丁目開発工事

■ 朝日興産

クラウドサービスで建設現場の生産性向上に貢献する

朝日興産は、竹中工務店グループの一員として培った豊かな経験と技術を生かしながら、幅広い分野に取り組み、商品・工事・サービスを提供しています。

なかでも近年は、竹中工務店が開発した建設現場向けアプリ「位置プラス®シリーズ」をクラウドサービスとして、建設業全体に展開しています。

当該サービスは、IoT技術で取得した建設現場の「ひと・もの」の位置情報をもとに管理業務を効率化し、建設現場の生産性向上に役立ちます。当社はサービスを開始するにあたり、ISMS※認証 (ISO27001) を取得し、お客様に安心してご利用いただける体制を構築しています。

※ISMS: 情報セキュリティマネジメントシステム



高所作業車の予約・位置管理

■ 東京朝日ビルド

「誇りあるものづくり」をモットーに「最良の躯体・サービスを提供する」

東京朝日ビルドは竹中工務店の企業内労働力確保を目的とした高等職業訓練校を起源とし、型枠・鉄筋工事の専門会社として設立されました。今では型枠・鉄筋工事のみならず、躯体工事全般を一貫体制で請け負う会社に成長し、耐震改修などでも総合力でお客様の期待にお応えしています。

また、前身である高等職業訓練校の「技能の研鑽、技術者の育成」の想いを受け継ぎ、全国の工業高校への「出前授業」や新入社員育成プログラム「ビルド学校」、資格取得支援制度などの活動を通じた若手や外国人実習生の育成にもたゆまぬ努力を続けています。

これからもお客様と対話を重ね、品質と安全を重視した「ものづくり精神」で社会に貢献し、サステナブル社会を実現させる100年企業を目指します。



社員で施工した社屋兼自社独身寮

■ アサヒファシリティズ

お客様の建物価値と安全を守る

アサヒファシリティズは、1969年の設立以来、全国のオフィス、病院、ホテル、商業施設など様々な建物において、お客様の最良のパートナーとして、建築及び設備の維持保全、警備、清掃などを提供するビルマネジメント事業、不動産の収益を向上させるプロパティマネジメント事業、損害保険を中心とした保険代理事業などをワンストップで提供しています。建物は、その機能を長期にわたって発揮してこそ優良な資産となります。私たちは、「建物管理のプロ」として、「技術力、対応力、提案力」を発揮し、さらに、最先端のICTによる最適化を実践することで、建物管理に求められる高度化・多様化したニーズに応え、省エネルギーや廃棄物削減などの環境保全に取り組み、建物をお客様の優良な資産として見守り続けます。

これからも、最良の建物管理と最適なソリューションを提供し、より良い仕事を通じ、人々の暮らしを守り、まちを未来へと繋いでいきます。



非常用発電設備点検



設備集中監視



消火設備点検

■ TAKリビング

人々の心と暮らしを支える快適な空間づくり

TAKリビングは、造作木工・家具工事と仕上一式工事を事業の柱とし、木工場を持つ専門工事会社として「最良の作品づくり」を支えてきました。設計・企画の支援からアフターサービスまでの一貫体制のもと、伝統木造建築をはじめとする幅広い分野でお客様の想いを「かたち」にしています。近年では、内装・インテリアの一式施工も手掛けるなど、時代のニーズに即応し、作品・サービスの両面でお客様に十分に満足していただくことを心がけています。今後も、常に本物を志向し、時代の一步先を見据えて感性を磨き、「確かなものづくり」を通して、広く社会に貢献していきます。



自社工場での「確かなものづくり」

■ TAKシステムズ

最良の設計・生産情報を構築し、建築と都市の創造に貢献する

2020年に創立30周年を迎えたTAKシステムズは、企画、設計から施工、施設管理に至る建築の全てのサイクルにおいてIT技術による設計・生産情報のシステム化やその活用を支援しています。建物情報は今後より高度にデジタル化され、竹中工務店が進める設計・生産段階でのBIMモデルの活用など、ICTを利用したシステムの有用性は飛躍的に増大するものと考えています。私たちは「最良の設計・生産情報」とは何かを常に探求し、想いを一つに課題を解決し、建築と都市の創造に貢献していきます。



FLATS WOODS 木場
Digital Twin ニーズに合致した高い付加価値を有する情報をサービス

サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画

当社は、建築・まちづくりを通し、サステナブル社会を実現するため、「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員」「協力会社」といったステークホルダーの期待に応えるための目標を「想い」という形で捉えています。

この「想い」を実現するために、「グループCSRビジョン」及び「グループ成長戦略」を踏まえ、当社が企業活動(事業・非事業)を通じて取り組むべき課題を2020年に重要課題(マテリアリティ)として抽出するとともに、「サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画」

として、実施方針に基づくKPI及び目標値を設定しました。
2021年は、3か年計画の2年目として、KPI及び目標値の達成に向けた取り組みを進めてきました。この内容について、2021年の実績を示すとともにP39以降で主な活動について報告します。今後は、「想い」を実現するための「サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画」を、ステークホルダーや有識者の方々との対話をさせていただきながら、さらに磨きをかけ、「まちづくり総合エンジニアリング企業」として、サステナブル社会の実現に貢献していきます。



重要課題グループ	重要課題(マテリアリティ)	影響範囲				方策	指標(KPI)	目標値	目標値	実績	目標値	貢献するSDGs	
		ES	C	E	S			2020年	2021年		2022年		
持続可能な建築・まちづくり	環境(ゼロエネ・脱炭素)・社会に配慮した建築とサービスの展開	○	○			木造・木質建築の推進	木造・木質建築選定プロジェクト件数	11件	13件	9件	15件		
		○	○			ZEB・エネルギーマネジメントの推進	ZEBプロジェクト件数/エネルギーマネジメント提案件数	10件/10件	15件/13件	15件/31件	20件/15件		
		○	○			ウェルネス建築の推進	ウェルネス建築認証取得件数	5件	7件	5件	9件		
	サステナブルなまちに向けた社会システムの創出	○	○			まちづくりの活動フィールドを設定し、社会課題解決に向けた具体的な活動を実施	社会システム実証等活動数	9件	10件	9件	10件		
		○	○			社会システムの構築による事業化の推進	事業化数	3年で2件以上	3年で2件以上	4件	3年で2件以上		
		○	○			まちづくりの起点となるプロジェクト創出	プロジェクト提案件数	3件	5件	4件	5件		
建築とまちのレジリエンスの向上	○	○			災害対策・支援メニュー拡充と適用	メニュー拡充(開発・適用件数)	拡充メニューの検討	開発継続4件うち2件試行開始	開発継続4件うち2件試行開始	開発4件・適用開始4件			
建築の長寿命化とストックの維持・活用推進	○	○			価値を生み続ける資産経営・施設運用のための調査・提案技術の強化	推進要素技術適用件数 長寿命化に貢献する提案件数	調査研究 提案資料検討	3件 2件	3件 2件	6件 4件			
伝統文化の継承と価値再創出	○	○			伝統建築・歴史的建築物の保存・再生・活用の推進	伝統建築保存再生プロジェクト実施/取組件数	3件/5件	3件/5件	4件/6件	3件/5件			
環境との調和	事業活動におけるCO ₂ 削減	○	○	○	○	作業所・事業所におけるCO ₂ 削減の推進(スコープ1・2)	施工時原単位 オフィスエネルギー消費量削減率(対前年比)	10.1CO ₂ t/億円 1%以上	9.9CO ₂ t/億円 1%以上	8.3CO ₂ t/億円 0.1%増加	9.7CO ₂ t/億円 1%以上		
	今後の気候変動への対応	○	○	○	○	設計 気候変動への適応計画ガイドラインの策定 施工 気候変動に対応する施工技術の開発・実施	進捗度	設計 情報収集 施工 要素技術調査検討	予測・企画 気温上昇への対応技術開発実施	予測・企画 気温上昇への対応技術開発申請	適用計画ガイドライン策定 気温上昇への対応技術試行開始		
	生物多様性への配慮	○	○	○	○	生物多様性向上プロジェクトの推進	生物多様性向上プロジェクト数	10件	12件	12件	15件		
	資源循環と廃棄物削減	○	○	○	○	資源循環・廃棄物削減に向けた設計・調達段階からの検討 新築工事の廃棄物リサイクルの推進	新築工事の建設副産物リサイクル率(容積比)	93.0%	93.5%	96.1%	94.0%		
技術革新と共創	先端技術開発とイノベーションの推進	○	○	○	○	ロボット・AI化・デジタルデータ活用の推進/新材料等の先端技術開発	適用・実用化件数	10件	12件	12件	15件		
	共創活動の推進	○	○	○	○	多様な人々が交流する場や仕組みづくり エリアマネジメントやコミュニティデザイン活動により、総合的なまちづくり活動を実施	交流の場づくり・イベント数 エリアマネジメント、コミュニティデザイン活動数	実績の把握 実績の把握	4件以上 5件	6件 5件	4件以上 5件		
働き方・生産性改革	労働時間等の適正な労働条件の担保	○	○	○	○	適切なプロジェクト工期と人員の確保 フロントローディングによる着工後業務の削減	作業所閉目目標達成率	4週7閉所 100%	4週8閉所 100%	4週8閉所 25%	4週8閉所 100%		
	持続可能で生産性の高い建設プロセスの追求	○	○	○	○	工業化や高効率構工法の設計取り込みによる労務工数の削減 BIM・デジタルファブリケーションによる効率化と手戻りの削減	施工高効率 施工高管理効率	1.81万円/人・時間 11.6万円/人・時間	1.88万円/人・時間 12.1万円/人・時間	1.79万円/人・時間 10.3万円/人・時間	1.96万円/人・時間 12.6万円/人・時間		
	多様な人々の健やかで働きがいのある環境の実現	○	○	○	○	ワークライフバランス(WLB)推進による多様な働き方の実現	従業員満足度	3.60以上	3.65以上	3.53	3.70以上		
		○	○	○	○	ダイバーシティの推進 健康経営ガイドライン等を踏まえたPDCAマネジメントの実施	女性管理職比率 健康経営度調査総合評価点	4.5%以上 500点以上	5.0%以上 500点以上	4.8% 575点	5.5%以上 500点以上		
	差別とハラスメントの撲滅	○	○	○	○	ハラスメントの環境調査・教育啓蒙の実施	教育実施率	100%	100%	100%	100%		
	人材の確保と育成・定着	○	○	○	○	【従業員】環境変化に応じた若年層社員教育の見直し 【協力会社】協力会社と一体となった入職活動と労務賃金見直し 技能労働者の育成・技能継承施策の展開	新卒者離職率(入社3年時点) 新規入職技能労働者数	3.5%以下 720人	3.0%以下 720人	2.8% 609人	3.0%以下 720人		
着実な生産プロセス	高品質で安全な建築とサービスの提供	○	○	○	○	協力会社を含む設計段階からの品質づくり込み	重大な品質問題発生件数	0件	0件	0件	0件		
	公衆災害や労働災害のない作業所の実現	○	○	○	○	安全先取り計画の推進/多様化する作業員の知識・意識の向上	重大な公衆災害・労働災害発生件数	0件	0件	3件	0件		
	持続可能なサプライチェーンの実現	○	○	○	○	CSR調達ガイドラインの周知と運用 環境を考慮したグリーン調達の継続	周知・適用率 重点グリーン調達品目採用数/1プロジェクト	当年周知実施率100% 10品目以上	当年周知実施率100% 10品目以上	当年周知実施率100% 設計13.1品目 施工14.6品目	当年周知実施率100% 10品目以上		
健全な組織基盤	信頼あるガバナンスの構築 コンプライアンスの徹底 情報開示や対話推進による組織の透明性の向上 リスクマネジメントの確立 情報セキュリティの確保 人権の尊重	○	○	○	○	企業倫理中央委員会・コンプライアンス/ 危機管理委員会での統制・管理	重大なコンプライアンス事案の発生数	0件	0件	0件	0件		

ES: 環境・社会 C: お客様 E: 従業員 S: 協力会社

持続可能な建築・まちづくり



事業活動を通して社会の課題を解決し、社会からの信頼を得ながら成長し続けるために、地域社会や地球環境に配慮しながら、サステナブルなまちに向けた社会システムの創出やレジリエンスの向上により、持続可能な建築・まちづくりを進めています。

環境(ゼロエネ・脱炭素)・社会に配慮した建築とサービスの展開

■ 木造・木質建築の推進

当社は耐火木造技術や中高層木造技術の開発を通じて、木造・木質建築の普及と国産木材の活用に取り組んでいます。日本で初めて木造ハイブリッド構造を採用した分譲マンション「プラウド神田駿河台」(14階建、2021年2月竣工)や耐火木造と木質化を採用した12階建て高層商業ビル「HULIC & New GINZA 8」(同年10月竣工)を完成し、中高層建築の木造・木質化を着実に進めています。森林資源と地域経済の持続可能な好循環「森林ブランドサイクル®」をテーマとして、高層木造賃貸住宅「FLATS WOODS 木場」において2020年から開催している「体験会」には110団体660名が来場し、多くの企業や自治体・官庁・団体に対して当社の取り組みを紹介しました。



関連項目:P29 エンジニアリング > 木造・木質建築

プラウド神田駿河台 HULIC & New GINZA 8

KPI 木造・木質建築選定プロジェクト件数

実績:9件 (目標:13件)

■ ZEB・エネルギー管理の推進

脱炭素社会に貢献するZEB(ネット・ゼロエネルギー・ビル)、エネルギー管理システムの拡大を推進しています。2021年2月に竣工した中央大学の「FOREST GATEWAY CHUO」では、建物の特徴である大きなアトリウムを最先端の環境シミュレーションを利用して計画し、居住域空調や自然通風等により、快適性と省エネ性を両立しました。自然換気や昼光利用、太陽光発電等、自然エネルギーの効果的な活用により、エネルギー消費量を基準値より52%削減し、ZEB-Ready*1(計画値)を達成しました。また、2021年8月に竣工した「正興電機製作所古賀事業所エンジニアリング棟」では、垂直水平ルーバー等による外皮性能向上、自然換気等の自然エネルギーの利用、タスク&アンビエント空調、潜熱顕熱分離空調等の高効率システムの活用などにより、エネルギー消費量を基準値より57%削減、さらにオンサイトの太陽光発電により、トータル115%の削減となり、net ZEB*2(計画値)を達成しました。



FOREST GATEWAY CHUO

KPI ZEBプロジェクト件数

実績:15件 (目標:15件)

KPI エネルギー管理提案件数

実績:31件 (目標:13件)

*1 ZEB-Ready:省エネルギーにより、エネルギー消費量を標準の50%以下とした建物
*2 net ZEB:省エネルギーにより、エネルギー消費量を標準の50%以下とし、さらに太陽光発電等の創エネルギーにより、エネルギー消費量をゼロとした建物

■ ウェルネス建築の推進

人が健康になる空間を目指して、ウェルネス建築を推進しています。竹中工務店の新入社員が共同生活をする「深江竹友寮」の建替えでは、シェアリビングを中心とした交流の誘発、自然を取り込み、寮生の心身の健康と豊かな生活を支える環境を実現し、集合住宅としては日本初となるWELL認証「Silver」ランクの認証を取得しました。また、当社の「北海道地区FMセンター」の建替えでは、仕事に応じて座席を選択できるABW(アクティビティベースドワーキング)の導入や、厳しい北海道の気候において、自然の風や温熱をシミュレーションを用いて適切に取り込む計画により、多様な働き方への対応や利用者の快適性・健康性の向上を図り、CASBEE-スマートウェルネスオフィス認証の最高位となる「Sランク」を取得しました。



竹中工務店深江竹友寮

KPI ウェルネス建築認証取得件数(WELL認証、CASBEE-WO認証)

実績:5件 (目標:7件)

建築とまちのレジリエンスの向上

■ 災害対策・支援メニュー拡充と適用

近年相次ぐ自然災害や感染症、さらに将来の南海トラフ巨大地震発生や気候変動などに対してレジリエントな建築・まちの実現が社会の課題となっています。当社は様々な災害対策技術の開発・普及に取り組んできましたが、2020年改めて感染症対策・水害対策・ライフライン途絶対策など強化すべき領域を定め、2021年は対策技術の開発・整備に着手し現在開発を継続しています。またこれらの技術を活用し、お客様や

地域のレジリエンス向上に貢献するため、コンサルティングなどソフト面の支援を強化しており、オンラインでの防災教育支援や各種訓練の支援などを実施しました。

KPI メニュー拡充(開発・適用件数)

実績:開発継続4件うち2件試行開始
(目標:開発継続4件うち2件試行開始)

伝統文化の継承と価値再創出

■ 伝統建築・歴史的建造物の保存・再生・活用の推進

伝統建築・歴史的建造物は、クールジャパンの発信や地方創生の起点となる施設として一層の社会的な役割が求められる一方、その存続が困難な状況も顕在化しています。当社はこれまで培ってきた伝統建築の設計ソリューションを活用し、歴史的建造物の機能改善や新用途を伴う再生を実現するコンサルティング・設計・施工にも対応しています。2020年には京都の木屋町にあった旧立誠小学校を、「立誠ガーデン ヒューリック京都」として再生しました。高瀬川に面する旧校舎はゲストルームに改修し、増築棟はその背景となるように旧校舎と調和させた外観としています。旧グラウンドであった「立誠ひろば」では、地元の祭りや運動会が催されるなど、ゲストと地域の人が変わることで新たな賑わいが生まれています。



関連項目:P24 建築 > 魅力再生®

立誠ガーデンヒューリック京都

KPI 伝統建築保存再生プロジェクト実施/取り組み件数

実績:実施件数4件/取り組み件数6件
(目標:実施件数3件/取り組み件数5件)

環境との調和



環境方針のもと、脱炭素社会、資源循環社会、自然共生社会の実現に向け、ISO14001の認証を受けた環境マネジメントシステムに基づいて環境貢献活動を推進しています。

生物多様性への配慮

■ 生物多様性向上プロジェクトの推進

当社が設計するプロジェクトを通じて自然が持つ多様な機能を活かした最適な土地利用を推進するため、生物多様性に着目し、地域の植生や土地利用の歴史への配慮、生態系ネットワーク創出、関係者参画による計画・設計から竣工後の維持管理・運営までの一貫した取り組みなどの活動について、適用実績を蓄積しています。

● 竹中育英会学生会寮建替計画(東京都練馬区)

周囲の住宅地の町並みに合わせ低く抑えられカーブする屋根と、屋根で集めた雨水を貯留・浸透・蒸発散する雨庭が呼応し、屋外・半屋外・屋内空間が住まう人が心地よい場所を見つめられる空間となっています。周辺の生きものや植生調査に基づく生態系ネットワーク創出の起点となるオープンスペースを提供し、人生の大切な時期である学生時代に四季を感じ人と自然との交流体験を積める創造性豊かな場を計画しています。



竹中育英会学生会寮建替計画(外観イメージ)

KPI 生物多様性向上プロジェクト数

実績: 12件 (目標: 12件)

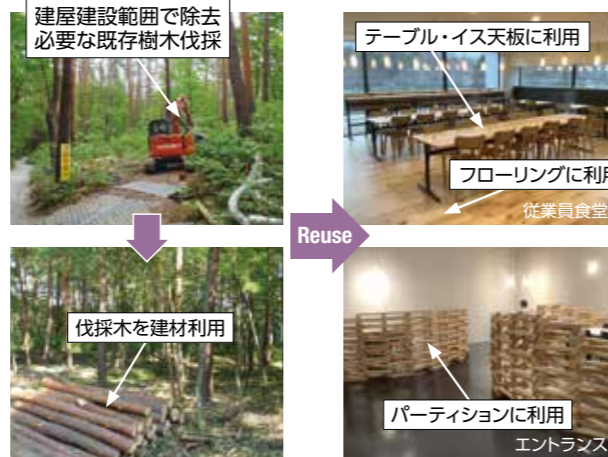
資源循環と廃棄物削減

■ 資源循環・廃棄物削減に向けた設計・調達段階からの検討 新築工事の廃棄物リサイクルの推進

サントリープロダクツ株式会社の長野M-5ものづくり棟新築工事では、自然豊かな山地に生産設備を新設しました。建設中の3R活動においても、お客様グループの企業理念「水と生きる」の約束と考動の在り方を反映し、現地の在来植物に配慮した土壌リユースや伐採材のリユースなど、「資源循環(3R)」[「低炭素(CO₂)」[「自然共生」]の全てに配慮したサステナブル活動を実践しました。その結果、2021年度リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞を受賞しました。

KPI 新築工事の建設副産物リサイクル率(容積比)

実績: 96.1% (目標: 93.5%以上)



働き方・生産性改革



建設業がこれからも持続可能であるために、生産性の高い建設プロセスを追究し、適正な労働条件の担保などによる人材の確保・育成と多様な人々が健やかで働きがいのある職場環境の実現を目指して取り組んでいます。

多様な人々の健やかで働きがいのある環境の実現

■ ダイバーシティ(多様性)の促進

当社では性別、国籍、年齢、障がいの有無などに関わらず、誰もが活躍できる職場環境の実現を目指しています。男性社員の比率が高いとされる建設業界において、近年では当社の新卒採用における女性比率が20%以上を占めています。多様性の中でも女性活躍の促進・職域拡大に取り組んでおり、けんせつ小町工事チームの活動促進など、作業所での女性活躍環境づくりを継続的に行っています。育児と仕事の両立支援においては、2020年に育児・介護のための在宅勤務及び短時間フレックスタイム制度の導入、また外勤を対象にバリアブル勤務の導入、全社員を対象に時間単位年次有給休暇の導入など、フレキシブルな働き方を可能にしました。その他にも、シニア層の豊富な経験とスキルを活かした活躍を目的として2022年4月より65歳定年延長を導入し、全世代の社員が活躍可能な仕組みを構築しています。



作業所で活躍するけんせつ小町

KPI 女性管理職比率

実績: 4.8% (目標: 5.0%以上)

■ WLB推進による多様な働き方の実現

2017年にスタートしたワークライフバランス(WLB)向上活動は、社長を委員長とする「抜本的な生産性向上によるWLB向上委員会」の下で、多様性を尊重しながら生産性向上と「働きがい」や「やりがい」を高めることを目的としています。喫緊の課題として、作業所の4週8閉所や2024年4月から建設業にも適用される、時間外労働の上限規制に照準を合わせて活動を継続しています。2021年は、時間管理意識のモードチェンジを目的に、社長メッセージと規制適用までの時間外上限目標のステップ計画を発信しました。その実現の土台となる生産性向上のための竹中新生産システムやBIMを推進するとともに、作業所の働き方改革推進体制を強化して負荷軽減施策を進めています。そうした活動の進捗や効果は、社長が直接社員と対話を行うWLBダイアログで把握して次の施策につないでいます。また、業務に役立つITスキルやコミュニケーション活性化に資するコンテンツを「ゆう活」と題してオンラインで提供し、幅広い社員の「働きがい」や「やりがい」の向上につなげました。



WLBダイアログの様子

KPI 従業員満足度

実績: 3.53 (目標: 3.65以上)

着実な生産プロセス

安全衛生方針・品質方針のもと、協力会社と一体となってお客様の期待に応える高品質なものづくりを推進しています。

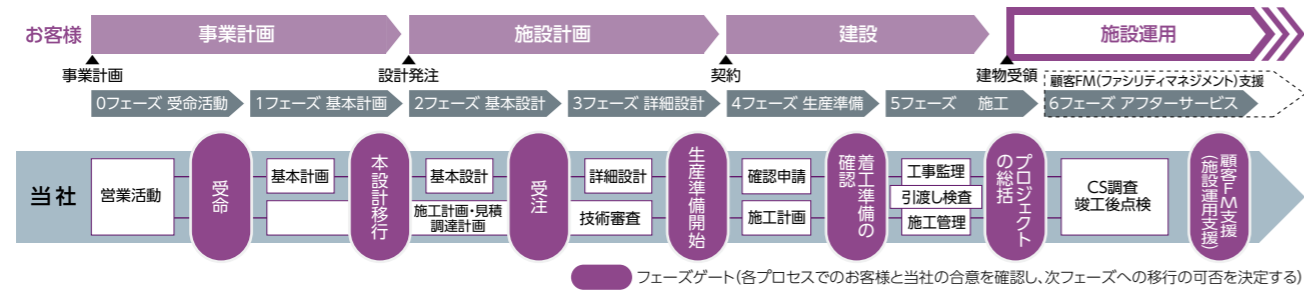


高品質で安全な建築とサービスの提供

■ 協力会社を含む設計段階からの品質づくり込み

設計施工一貫のメリットを活かした業務フローを「品質保証体系」として標準化 (ISO9001 認証取得) しており、設計段階から生産部門や主要協力会社が品質確保のためのづくり込みに参画しています。

品質保証体系図



KPI 重大な品質問題発生件数

実績: 0件 (目標: 0件)

公衆災害や労働災害のない作業所の実現

■ 安全先取り計画の推進 / 多様化する作業員の知識・意識の向上

労働災害を自分事として学べるVRコンテンツを製作し、作業員の知識・意識の向上教育に活用しています。実際に起こった災害事例をもとに実写で構成し、実際に体験したかのようなリアルな教育が可能となり、経験の浅い作業員や若年作業員にも理解しやすい内容となっています。

KPI 重大な公衆災害・労働災害発生件数

実績: 3件 (目標: 0件)



VR(バーチャルリアリティ)を使って労働災害を疑似体験

持続可能なサプライチェーンの実現

■ CSR調達ガイドラインの周知と運用

当社の「調達方針」及び「活動指針」に基づく行動を、より協力会社に徹底していただくため、2020年に法令等の遵守や人権の尊重等の活動内容を追記した「取引先活動ガイドライン」を作成しました。2021年はその要約版を作成して周知を図り、サプライチェーン全体でCSRへの取り組みを強化しています。

KPI 竹和会誌掲載及び建設業取引月間におけるお取引先(協力会社)への周知

当年周知実施率: 100% (目標: 100%)



取引先活動ガイドライン(要約版)

健全な組織基盤

当社は企業理念のもと「品質経営」を実践し、お客様の満足や社会からの信頼を得て、企業としての社会的価値を高めていくとともに、社会的責任を果たしていきます。



■ 企業倫理中央委員会・コンプライアンス/危機管理委員会での統制・管理

信頼あるガバナンスの構築

内部統制基本方針に基づき、企業理念及び企業行動規範を定め、周知を図っています。これら行動指針に基づき全社の企業リスク・コンプライアンス全般を統括し、社会規範及び法令遵守の推進を図るため、社長を委員長とする「企業倫理中央委員会」を設置し、企業リスク情報を一元化しグループ全体の注意喚起・指導を行っています。

コンプライアンスの徹底

コンプライアンスを徹底・推進させる体制として、企業倫理中央委員会の下にコンプライアンス委員会を設置し、重要リスクを特定し活動方針を定め推進状況を確認するとともに、個別事案の対応状況を確認し改善策を指示しています。さらに支店委員会を設置し、方針及び施策の展開を図り、各事業所に推進役を配置しています。また、当社内、グループ会社、取引先や一般からの相談・通報を受け付ける窓口を社内外に複数設置し活用することで、自浄作用の実現に努めています。企業行動規範において一人ひとりの良識ある行動、公正な取引、政治・行政との透明性の高い関係維持に努め、不当な利益などの取得を目的とする贈収賄等を行わないことを明記するとともに、毎年、企業行動規範を再確認しています。また、竹中グループでは、各国・地域の法令及び国際ルール等に従い、適正な納税を行うという社会的責任・公共的使命を果たしていくため、2020年に「税務方針」を制定しました。教育啓発では、各種法令改正等も含めた階層別研修の実施、最新動向を取り上げるニュースの発行、毎年の強化月間でのトップメッセージの発信、発生事案の防止をテーマとした職場ミーティングなどをグループ全体で実施しています。

人権尊重の取り組みの推進

2018年9月1日に人権方針を制定し、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、当社の「企業理念」及び「企業行動規範」に従って、事業活動において人権尊重に向けた取り組みを推進しています。同年に特定・評価した5つのハイリスク課題に引き続き取り組んでいます。

リスクマネジメントの確立

当社は市民生活や企業活動に脅威を与える反社会的勢力の行動やテロ、サイバー攻撃、自然災害、その他事故などに備え、企業倫理中央委員会の下に設置した危機管理委員会を中心に組織的な危機管理体制を整備しています。

● 情報セキュリティの強化

当社は、情報セキュリティに関する基本方針を定め、お客様の情報資産を守るための情報セキュリティ活動を推進しています。特に最近のサイバー攻撃の脅威拡大を受け、社外からの攻撃や不正侵入を早期に検知して被害を最小化できる仕組みを導入するとともに、「TAKENAKA-SIRT」によるインシデント対応体制を整備しています。また、海外も含めた竹中グループの全従業員の教育・啓蒙活動に加えて、サプライチェーンのセキュリティ強化のため、協力会社への教育・啓蒙にも力を入れています。

● 事業継続計画(BCP)の確認と

新型コロナウイルス感染症対策について

当社は、巨大地震の発生を想定し、従業員・家族の安否確認、各事業所・稼働作業所・お客様にお引き渡しした建物の被災状況確認・復旧などを全社的に行うBCPを策定しています。毎年、発生後の初動訓練として、災害シミュレーション訓練、地域性を踏まえた実動訓練、全社連携体制確認訓練について、グループ会社従業員とともに実施しています。また、近年、各地で台風や大雨による被害が多発していることを鑑み、風水害に対するマニュアルを策定し、有事に備えています。

一方、新型コロナウイルス感染症対策として、お客様、従業員・家族、協力会社等の関係者の生命と安全を最優先に、全社で感染予防と社内外への感染拡大防止策を推進しています。その一つとして、当社グループに従事している従業員・派遣社員、当社作業所に従事している協力会社従業員の安全・安心をより確実なものとするために、また社会的要請に対する責務を果たすため、接種希望者に対して、ワクチンの職域接種を実施しました。

社会貢献活動の推進

「飛び出そう、地域社会へ」をスローガンに、地域の様々なステークホルダーと連携し、地域教育活動への支援、地域交流の場への参画、企業財団活動などへの支援を通じた建築文化の継承と発信を行い、次世代を担う人材の育成と地域の発展に努めています。

建設事業における活動事例

● 小学生を対象に建築を学ぶワークショップを開催

茨城県の水戸市新市民会館等施設建築物新築工事作業所で、TAKENAKAキッズプログラム「たてもの探検隊」を開催しました。これは、建設中の作業所に地域の小学生を招き、建物の特徴を見て触れて感じてもらう体験型の企画です。今回は、やぐら広場の空間を構成する「燃エンウッド®」に着目して、木を使用する背景や伝統的な木組みの仕組みを学んでもらいました。参加した小学生からは、「木や見学した建物についてもっと知りたくなった」という嬉しい感想をいただきました。



木組み模型で、木をつなぐ仕組みを学ぶ

● 就労移行支援事業所からの実習生受け入れ

兵庫県神戸市の就労移行支援事業所（JOTサポート神戸）に所属し、発達障がいを持ちながら一般就労を目指す方々を、「実習生」として当社作業所事務所で受け入れました。事務処理能力向上を目指す事務補助業務を中心に、様々な方との交流を通じてコミュニケーション能力の向上などを支援しました。当社社員にとっても障がいの有無に関わらずお互いを尊重し合う職場を考える機会となりました。



作業所で業務を行う実習生

● 公益財団法人への活動支援と財団の相互連携

当社は、3つの公益財団法人の活動支援を通じて、「伝統技術の現代・未来への伝承」（竹中大工道具館）、「現代の建築文化の社会への発信」（ギャラリーエークウッド）、「未来の社会を担う人材の育成」（竹中育英会）を柱とした、過去・現在・未来をつなぐメセナ事業、育英事業を展開しています。2021年度ギャラリーエークウッドは「アイノとアルヴァ 二人のアルト」展の功績が認められ「西洋美術振興財団賞」を受賞しました。北欧フィンランドのモダニズム建築の巨匠アルヴァ・

アアルトとその妻アイノの協働による25年間の建築とデザインの軌跡を追い、二人の作品づくりにフォーカスした展覧会が評価されたものです。2020年までに開催した同ギャラリーと竹中大工道具館で開催した3つの企画を発展・結実させ、2021年に世田谷美術館と兵庫県立美術館で巡回展を開催しました。コロナ禍ではありましたが、アアルト・ファミリーコレクション、アルヴァ・アアルト財団、竹中育英会の協力を得て実現されました。



世田谷美術館での巡回展

● 公益財団法人竹中育英会

1961年に設立した竹中育英会は、創設者であり初代理事長である竹中藤右衛門の「感恩報謝」の理念のもと、青少年の育成と教育の深耕を図ることを趣旨に、返済不要の奨学金給付事業をはじめ、建築分野への研究助成や、ハンデキャップフィールドへの研究助成・教育設備助成を行っています。2012年からは展示会開催を主とする文化芸術振興事業も開始し活動の輪を広げています。

● 公益財団法人竹中大工道具館

1984年、神戸元町に「大工道具を収集・保存し、研究や展示を通じて工匠の精神や大工道具鍛冶の心を後世に伝えていく」ための施設として開設されました。2014年に新神戸駅近くに移転し、木の香りにあふれる和風建築の博物館に、日本の伝統文化に関心がある外国人を含め多くの見学者が訪れています。教育支援や文化の普及にも力を入れており、出張授業、大学からの実習生の受け入れなどを行っています。

● 公益財団法人ギャラリーエークウッド

2005年に竹中工務店東京社屋1階に開館したギャラリーエークウッドは、「建築・愉しむ」を活動の基本とし「建築」を通して社会を見つめることをコンセプトにした企画展を開催しています。建築文化へつながる様々な扉を通して、来場者に楽しみながらまちづくりや環境問題を考える契機を提供しています。

重要文化財「聴竹居」(京都府大山崎町)

当社設計組織の黎明期に在籍後、京都大学教授となった藤井厚二が、建築環境工学の知見を活かして建てた自邸で、昭和初期を代表する木造モダニズム建築です。現在は、閉館し3棟(本屋・閑室・茶室)の保存修理工事が進められ、2022年6月に竣工予定で、前庭を含む外構工事は2023年春に完了する予定です。



本屋の外観(1928年築)

● 社会的背景における文化遺産の保存修理

2019年4月にパリの「ノートルダム大聖堂」、10月に沖縄の「首里城正殿」の焼損が続き、文化遺産に対する危機意識が高まりました。そうした中で、「聴竹居」を火災から守るため、3棟の保存修理工事に加え、国の防災施設整備事業として、放水銃6基(自動散水消火)と地下貯留水槽・ポンプ室の設置を2022年春に完了しました。



地下貯留水槽・ポンプ室 山留工事

● 環境建築としての学術的意義

藤井厚二は1919年に竹中工務店を退社し、新設された京都帝国大学建築学科の講師となりました。2020年は教壇に立って100年にあたり、京都大学建築学科の100周年記念誌で「日本の住宅」の理想形を「聴竹居」に結実させ、学術同人誌『建築学研究』の生みの親、育ての親として後進の育成にも努めた」と紹介されています。また、今春「聴竹居」は高校家庭科教科書に「真に日本の気候風土と日本人の感性に適した住居」として掲載されました。



「京都大学建築学100年の歩み」

● 地域連携と建築文化発信

貴重な住宅の保存活用のために、2000年に空き家となった「聴竹居」の実測調査を大阪本店設計部の有志で行い、2008年から予約制で一般公開を始め、全国各地から見学者が徐々に訪れ、2013年には天皇皇后両陛下(当時)が行幸啓されています。2016年に土地・建物を取得、翌年、国の重要文化財に指定され、年間来場者が1万人にのぼりました。地元住民で

構成された一般社団法人「聴竹居倶楽部」とともに行う保存公開活動は、メセナアワード2019「メセナ大賞」を受賞しました。

また、大山崎町にある6つの重要文化財の所有者・管理者で「大山崎町重要文化財ネットワーク」を設立し、地域での誇りや愛着を持って活動をしています。



地元の方々による見学者へのガイド

● 展覧会による継続した建築文化発信

2018年は「聴竹居」展を竹中大工道具館で、2019年は「太田喜二郎(画家)と藤井厚二」展を京都文化博物館、目黒区美術館で、「京都モダニズム武田五一・藤井厚二・前川國男」展をパリ・ロンドン・ケルンで、2021年は「日本建築における孤独とつながり」展がアラブ首長国連邦シャルジャ国で、「モダン建築の京都」展が京都市京セラ美術館で開催されました。



竹中大工道具館「聴竹居」展

● 次世代を担う人材への伝承

建築系ゼミの大学生に「聴竹居」の見学を実施し、環境建築について説明しています。また、京都府建築士会主催の「京都建築賞」の一つとして2017年に創設し毎年実施されている「藤井厚二賞」の受賞者記念座談会の会場に「聴竹居閑室」を提供しています。当社新入社員へも貴重な建築物と先輩の「日本の住宅」への想いと実践、当社建築文化への取り組みを学ぶ機会を設けています。



「藤井厚二賞」記念座談会

組織統治 — 経営の質の向上と、迅速で的確な意思決定を行うガバナンスの充実

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社では、「企業活動全体の質」の改善向上活動に取り組み、広くお客様や社会から信頼を得て、社会的価値を高めるといった考えのもと、コーポレート・ガバナンス体制を構築し、その適正な運営に取り組んでいます。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

● 取締役会・執行役員制度

経営に関する意思決定及び業務執行の監督機関として、取締役会を毎月1回、その他必要に応じて開催しています。また、経営意思決定の迅速化と事業執行機能、監督機能の強化を図るため、2010年より執行役員制度を導入しています。執行役員は、取締役会が決定した経営方針に基づく業務執行権限を委譲され、取締役の監督のもとで経営方針に従い、業務執行にあっています。

● 監査役会

社外監査役2名を含む4名で組織されており、監査役は取締役会に出席するなど、取締役の職務執行を監査しています。

● 企業倫理中央委員会

社会規範及び法令遵守の推進をより一層図るため、社長を委員長とする「企業倫理中央委員会」を設けています。これまで活動してきた「コンプライアンス委員会」「危機管理委員会」とあわせて一体的な活動により、コーポレート・ガバナンス体制を推進しています。

● コンプライアンス委員会

コンプライアンス分担役員を委員長として、コンプライアンスに関する教育啓蒙と再発防止策の指導徹底を行います。

● 危機管理委員会

代表取締役を委員長として、自然災害をはじめとするリスク事象における迅速・的確かつ誠実な対応を行うとともに、平時における危機管理活動を推進しています。

● 監査室

経営活動に関する自己統制手段である内部監査組織として監査室を設置し、会社の業務、会計及び財産の実態について、その正確性・妥当性の確認を行っています。

● CSR推進部

本社にCSR推進部を設置し、コンプライアンス教育を推進しています。また竹中グループ全体にわたり各事業所にCSR・コンプライアンス推進責任者、CSR・コンプライアンスリーダーを任命し、教育・啓蒙の推進役としています。

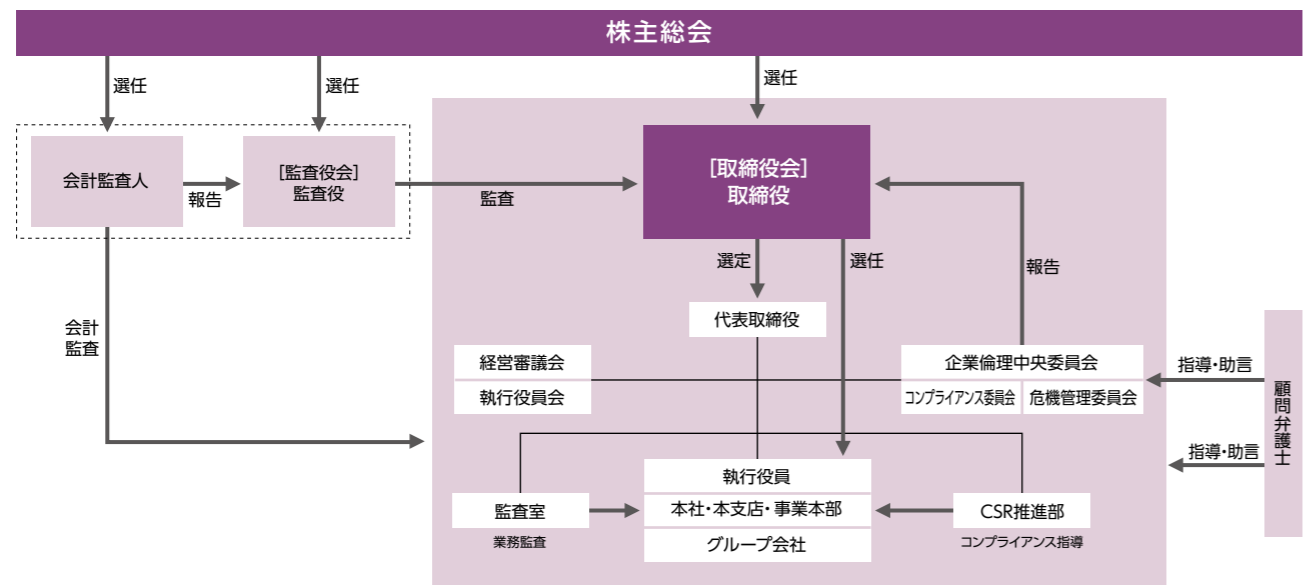
● 会計監査人

会社法及び金融商品取引法の会計監査について、独立監査人としての公正・不偏的立場から監査を受けています。

● 顧問弁護士

複数の法律事務所と顧問契約を締結し、必要に応じて指導・助言を受けています。

コーポレート・ガバナンス体制図



社名 株式会社竹中工務店

本社所在地 大阪市中央区本町4-1-13

資本金 500億円(2022年3月現在)

建設業許可番号 国土交通大臣許可(特-1、般-1)第2744号

従業員数 7,757名(グループ全体13,212名)
(2022年1月現在)

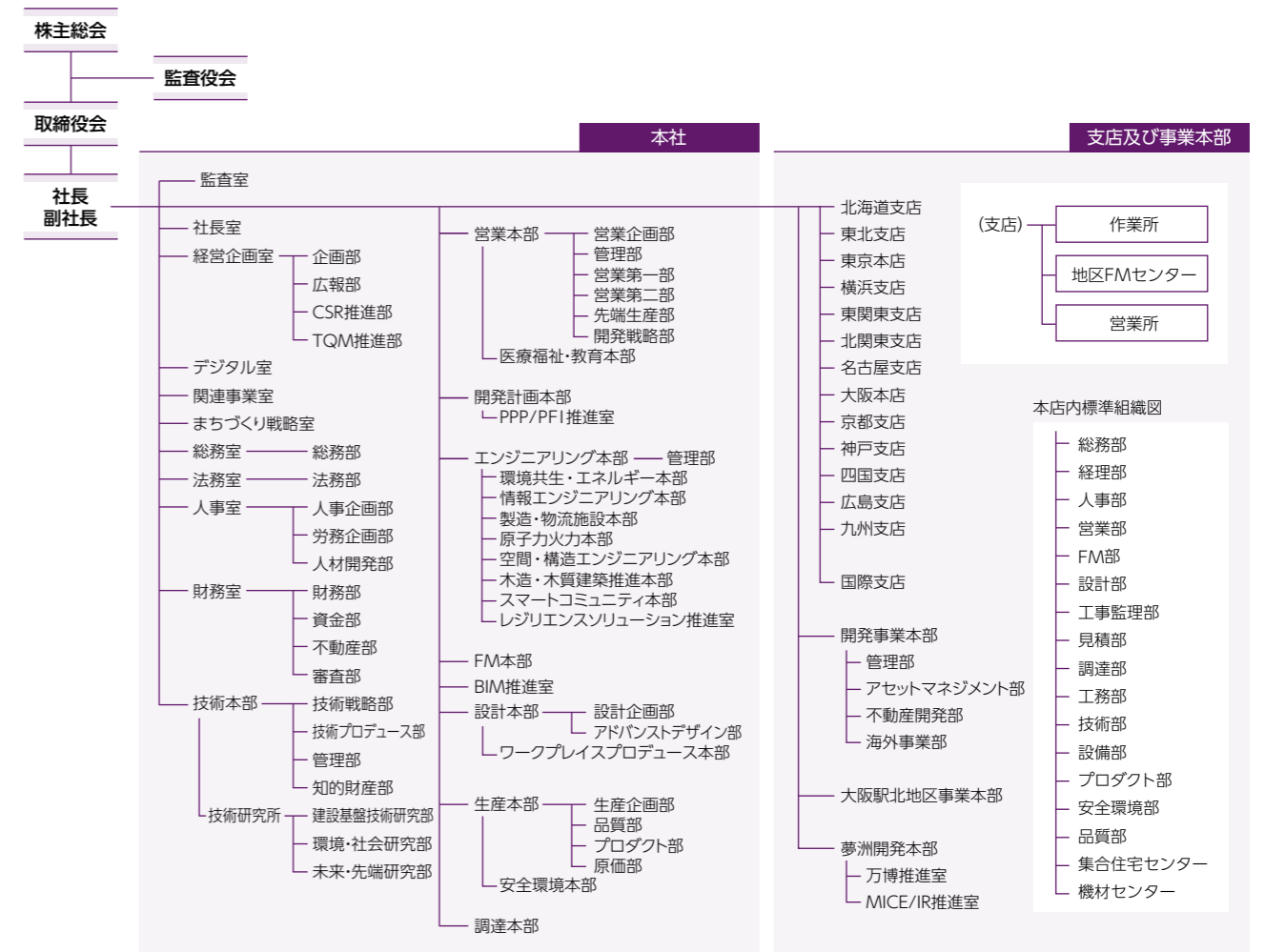
グループ会社 子会社53社、関連会社12社、その他関係会社1社

資格者数 1級建築士 …………… 2,397
1級建築施工管理技士 …………… 2,280
技術士 …………… 189
博士 …………… 118
(2022年1月現在)

事業内容 1.建築工事及び土木工事に関する請負、設計及び監理
2.建設工事、地域開発、都市開発、海洋開発、宇宙開発、エネルギー供給及び環境整備等のプロジェクトに関する調査、研究、測量、企画、評価、診断等のエンジニアリング及びマネジメント
3.土地の造成並びに住宅の建設
4.不動産の売買、賃貸、仲介、斡旋、保守、管理及び鑑定並びに不動産投資に関するマネジメント 他

取引銀行 三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行、三井住友信託銀行、農林中央金庫 他

組織図 (2022年4月1日付)



損益計算書・貸借対照表(連結)

(百万円)

	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019	第83期 2020	第84期 2021
受注高	1,391,442	1,397,818	1,419,121	1,238,508	1,306,428
売上高	1,295,951	1,353,627	1,352,064	1,237,758	1,260,430
営業利益	107,988	85,063	80,235	39,788	46,367
営業利益率(%)	8.3	6.3	5.9	3.2	3.7
経常利益	115,304	93,977	89,502	46,954	57,799
親会社株主に帰属する 当期純利益	75,762	63,638	68,918	30,528	39,346
純資産	652,033	671,189	762,642	751,745	822,449
総資産	1,450,191	1,468,850	1,519,771	1,442,958	1,581,524

その他の財務データ(連結)

(百万円)

	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019	第83期 2020	第84期 2021
営業活動によるキャッシュフロー	88,476	107,719	△45,512	△7,863	96,522
投資活動によるキャッシュフロー	△42,847	△40,772	△15,448	△33,051	△14,324
財務活動によるキャッシュフロー	△14,235	△32,662	△14,509	23,054	2,200
研究開発費(億円)	77	84	93	93	95
設備投資(億円)	565	270	417	432	267
自己資本利益率(ROE)(%)	12.6	9.7	9.7	4.1	5.0

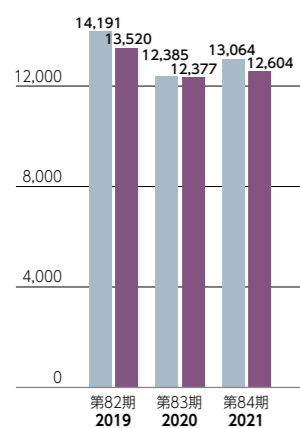
事業別売上高(連結)

(百万円)

	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019	第83期 2020	第84期 2021
建設事業	1,193,475	1,241,868	1,241,923	1,146,184	1,152,439
開発事業	49,653	59,045	54,448	35,571	49,254
その他	52,822	52,713	55,692	56,002	58,736

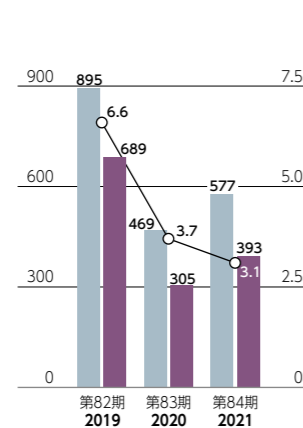
受注高/売上高(連結)

(億円)
16,000



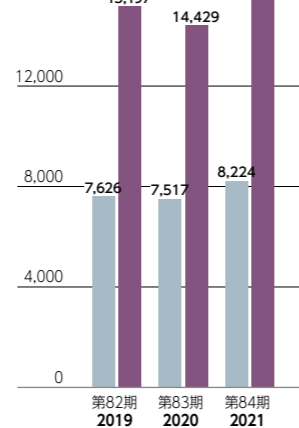
経常利益・経常利益率/
親会社株主に帰属する当期純利益(連結)

(億円) (%)
1,200 10.0



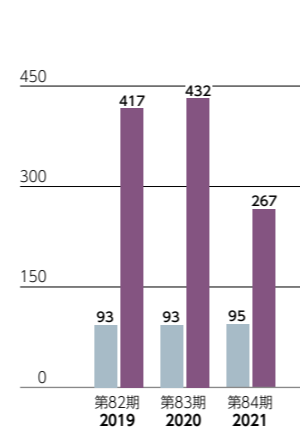
純資産/総資産(連結)

(億円)
16,000



研究開発費/設備投資額(連結)

(億円)
600



地域別売上高(連結)

(百万円)

	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019	第83期 2020	第84期 2021
日本	1,128,429	1,180,889	1,198,630	1,117,451	1,114,353
アジア	91,847	87,339	74,534	64,605	79,456
欧州	46,353	52,678	48,315	44,605	45,070
北米	29,320	32,719	30,584	11,095	21,549
その他	—	—	—	—	—

非財務データ(単体)

	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019	第83期 2020	第84期 2021
従業員数(人) (連結)	7,400 (12,982)	7,500 (13,042)	7,630 (13,355)	7,741 (13,171)	7,757 (13,212)
従業員平均年齢(歳)	44.0	44.0	44.0	44.0	44.1
平均勤続年数(年)	19.2	19.1	17.1	19.1	18.5
女性役付職人数(人)	100	121	131	146	155
度数率 (休業4日以上災害)*1	0.54	0.56	0.54	0.38	0.55
施工時CO2排出量 原単位(t/億円)*2	10.0	10.4	10.3	9.9	8.3
建設副産物リサイクル率 (容量%)*3	94.7	91.6	92.0	93.5	94.5
CASBEE S・Aランク プロジェクト件数比率(%)*4	77.3	85.7	89.2	91.7	93.8

*1 100万延労働時間あたりの休業4日以上労働災害による死傷者数の割合。(1人親方等を含む)

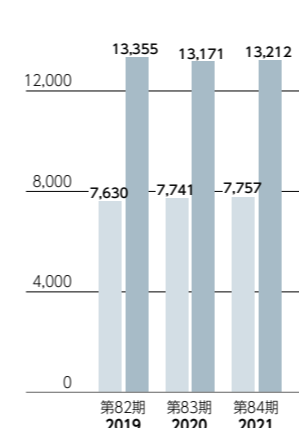
*2 施工高あたり。

*3 新増築・改修・解体工事が対象。建設汚泥、特別管理廃棄物は含まない。

*4 Sランク及びAランクプロジェクトの合計。対象は当社設計プロジェクト。

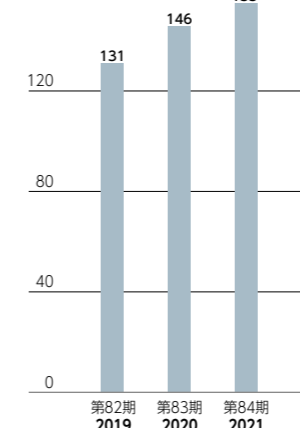
従業員数(単体・連結)

(人)
16,000



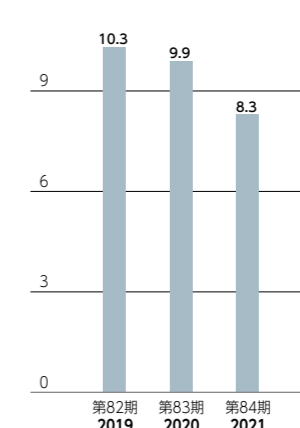
女性役付職人数(単体)

(人)
160



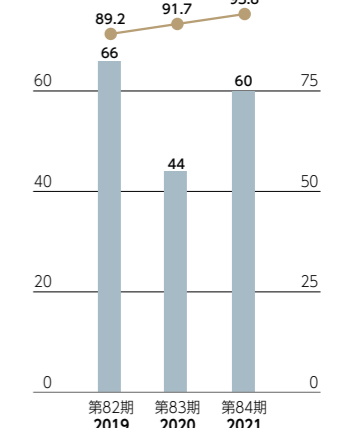
施工時CO2排出量原単位(単体)

(t/億円(施工高あたり))
12



CASBEE S・Aランク
PJ件数/比率(単体)

(件) (%)
80 100



想いをかたちに 未来へつなぐ



株式会社 竹中工務店

本 社	大阪市中央区本町4-1-13	〒541-0053	06-6252-1201
北海道支店	札幌市中央区大通西4-1	〒060-0042	011-261-2261
東北支店	仙台市青葉区国分町3-4-33	〒980-0803	022-262-1711
東京本店	東京都江東区新砂1-1-1	〒136-0075	03-6810-5000
横浜支店	横浜市西区花咲町6-145	〒220-0022	045-321-1261
東関東支店	千葉市中央区中央港1-16-1	〒260-0024	043-242-0525
北関東支店	さいたま市大宮区桜木町1-9-6	〒330-0854	048-647-4471
名古屋支店	名古屋市中区錦2-2-13	〒460-8633	052-211-2111
大阪本店	大阪市中央区本町4-1-13	〒541-0053	06-6252-1201
京都支店	京都市中京区壬生賀陽御所町3-1	〒604-8811	075-801-2131
神戸支店	神戸市中央区磯上通7-1-8	〒651-0086	078-265-3300
四国支店	高松市西内町12-11	〒760-0022	087-851-1175
広島支店	広島市中区橋本町10-10	〒730-0015	082-212-0111
九州支店	福岡市中央区天神4-2-20	〒810-0001	092-711-1211
国際支店	東京都江東区新砂1-1-1	〒136-0075	03-6810-5000
開発事業本部	東京都江東区南砂2-5-14	〒136-0076	03-6810-5000
竹中技術研究所	千葉県印西市大塚1-5-1	〒270-1395	0476-47-1700

<https://www.takenaka.co.jp>

